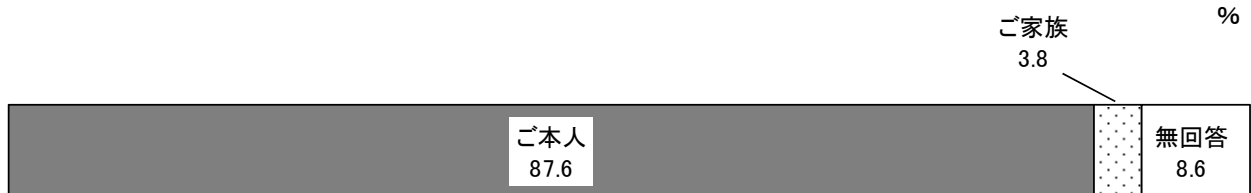


### Ⅲ. 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査

#### 【調査票の記入者】

記入者は、「ご本人」が87.6%と最も多かった。「ご家族」は3.8%であった（図表3-1）。

図表3-1 記入者（N=824）



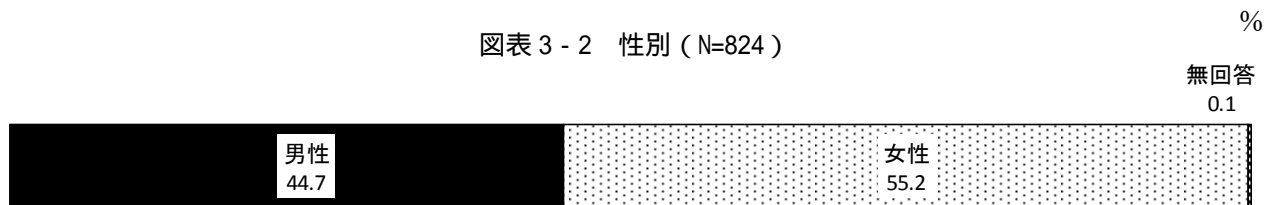
#### 1. ご本人のこと

##### (1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性」が44.7%、「女性」が55.2%であった（図表3-2）。

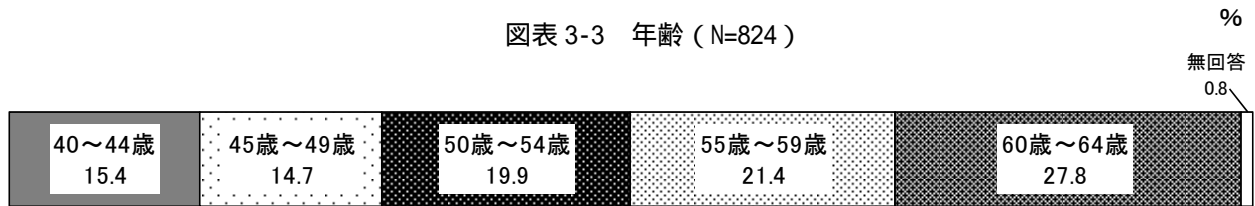
図表3-2 性別（N=824）



(2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、40歳代が30.1%、50歳代が41.3%、60歳～64歳が27.8%であった（図表3-3）。



図表 3-4 年齢（性別）

		(%)				
		40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳
性別	男性 (N=367)	15.0	12.5	19.9	23.2	29.4
	女性 (N=450)	16.0	16.7	20.2	20.2	26.9

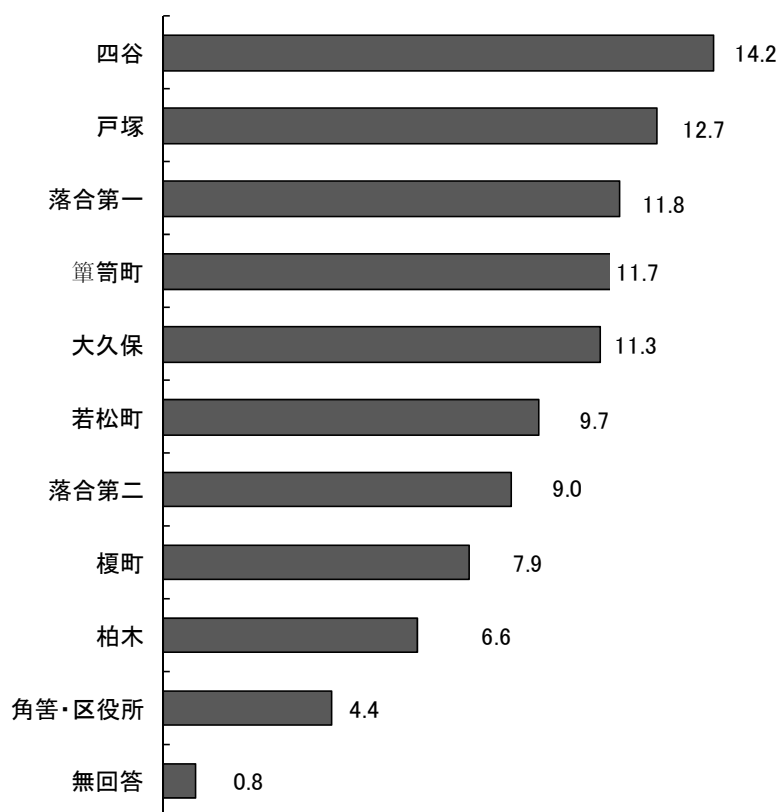
### (3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「四谷（14.2%）」が最も多く、続いて「戸塚（12.7%）」「落合第一（11.8%）」の順であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（4.4%）」であった（図表3-5）。

図表 3-5 居住地（N=824） %



#### (4) 世帯構成

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

(あてはまる番号に1つ)

あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

世帯構成は、「ひとり暮らし」が20.1%、「夫婦のみ」が23.9%、「その他」が55.6%であった(図表3-6)。

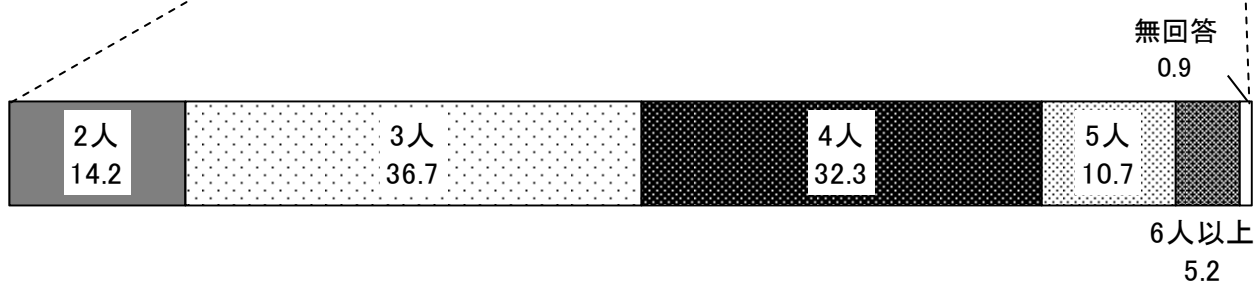
問4で「その他」と答えた人に世帯人数をたずねた。

「その他」の世帯人数は、「3人(36.7%)」が最も多く、次いで「4人(32.3%)」であった(図表3-7)。

図表 3-6 世帯構成 (N=824)



図表 3-7 世帯人数 (N=458)

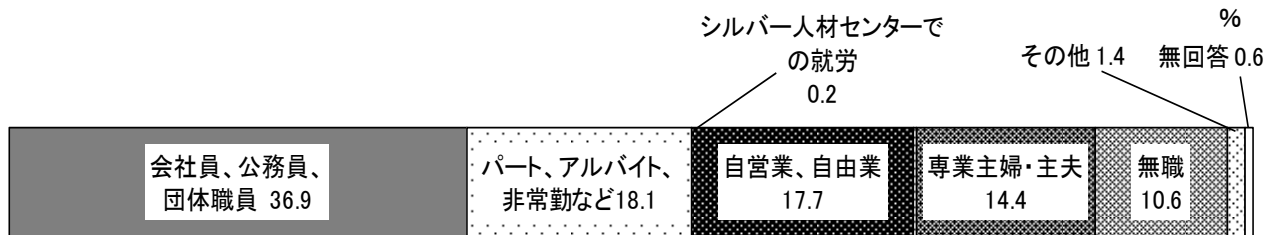


(5) 職業

問5 あなたのご職業はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

職業は、「会社員、公務員、団体職員（36.9%）」が最も多く、続いて「パート、アルバイト、非常勤など（18.1%）」「自営業、自由業（17.7%）」の順であった（図表3-8）。

図表3-8 職業（N=824）

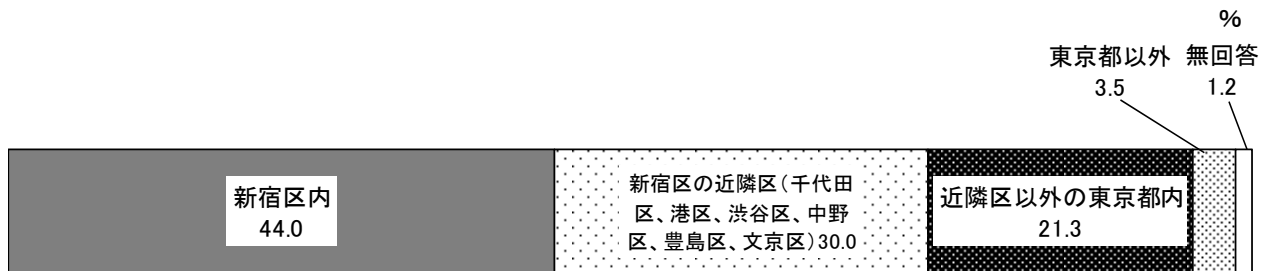


(5-1) 勤務地

問5-1 あなたの勤務地はどちらですか？（あてはまる番号に1つ）

勤務地は、「新宿区内（44.0%）」が最も多く、続いて「新宿区の近隣区（30.0%）」「近隣区以外の東京都内（21.3%）」の順であった（図表3-9）。

図表3-9 勤務地（N=601）

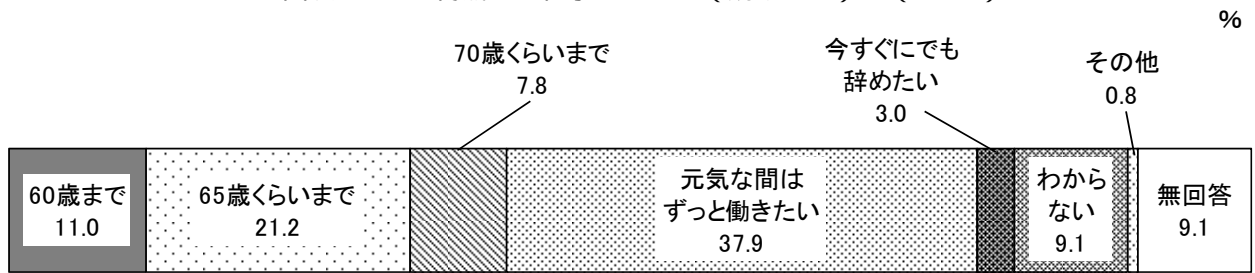


(6) 職業継続意向

問6 あなたは何歳まで仕事をしたい(続けたい)ですか?(あてはまる番号に1つ)

仕事をしたい(続けたい)年齢は、「元気な間はずっと働きたい(37.9%)」と回答した人が最も多く、続いて「65歳くらいまで(21.2%)」「60歳まで(11.0%)」の順であった(図表3-10)。

図表3-10 何歳まで仕事をしたい(続けたい)か(N=824)



(7) 暮らし向き

問7 現在の暮らし向きはどうか?(あてはまる番号に1つ)

現在の暮らし向きは、「ゆとりがある(7.2%)」「ややゆとりがある(43.3%)」と回答した人は、合わせて5割以上であった。一方、「苦しい(15.4%)」「やや苦しい(32.0%)」と回答した人は、合わせて47.4%であった(図表3-11)。

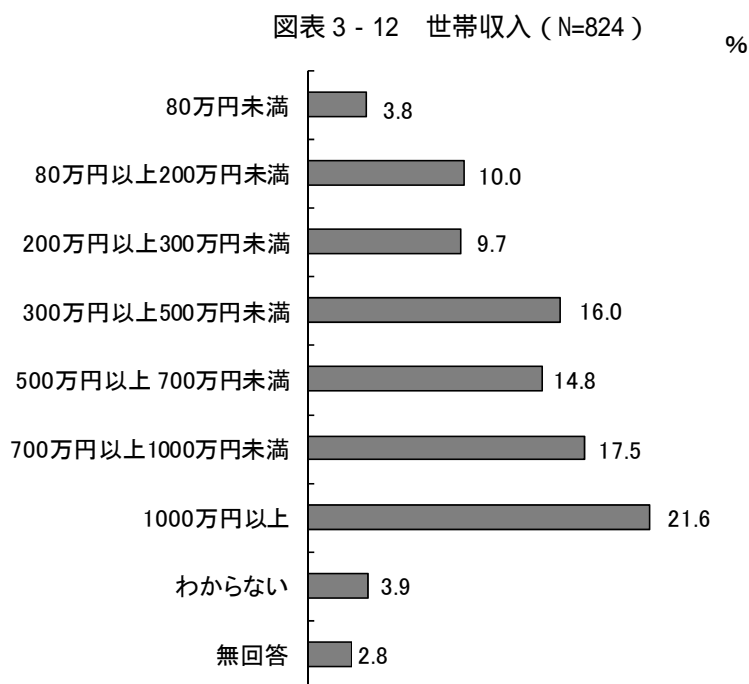
図表3-11 暮らし向き(N=824)



## (8) 世帯収入

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか？  
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は、「1,000万円以上(21.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「700万円以上1,000万円未満(17.5%)」「300万円以上500万円未満(16.0%)」の順であった。一方、「80万円未満」は3.8%であった(図表3-12)。



## (9) 介護経験(身内)

問9 あなたは、ご高齢の方(身内の方に限る)の介護をした経験がありますか？  
(あてはまる番号に1つ)

身内の高齢者の介護経験は、「介護をしたことはない(65.0%)」と回答した人が約7割であった。一方、「現在はしていないが、過去に介護したことがある」は23.3%、「現在介護している」は9.8%であった(図表3-13)。

図表3-13 介護経験(身内)の有無(N=824)



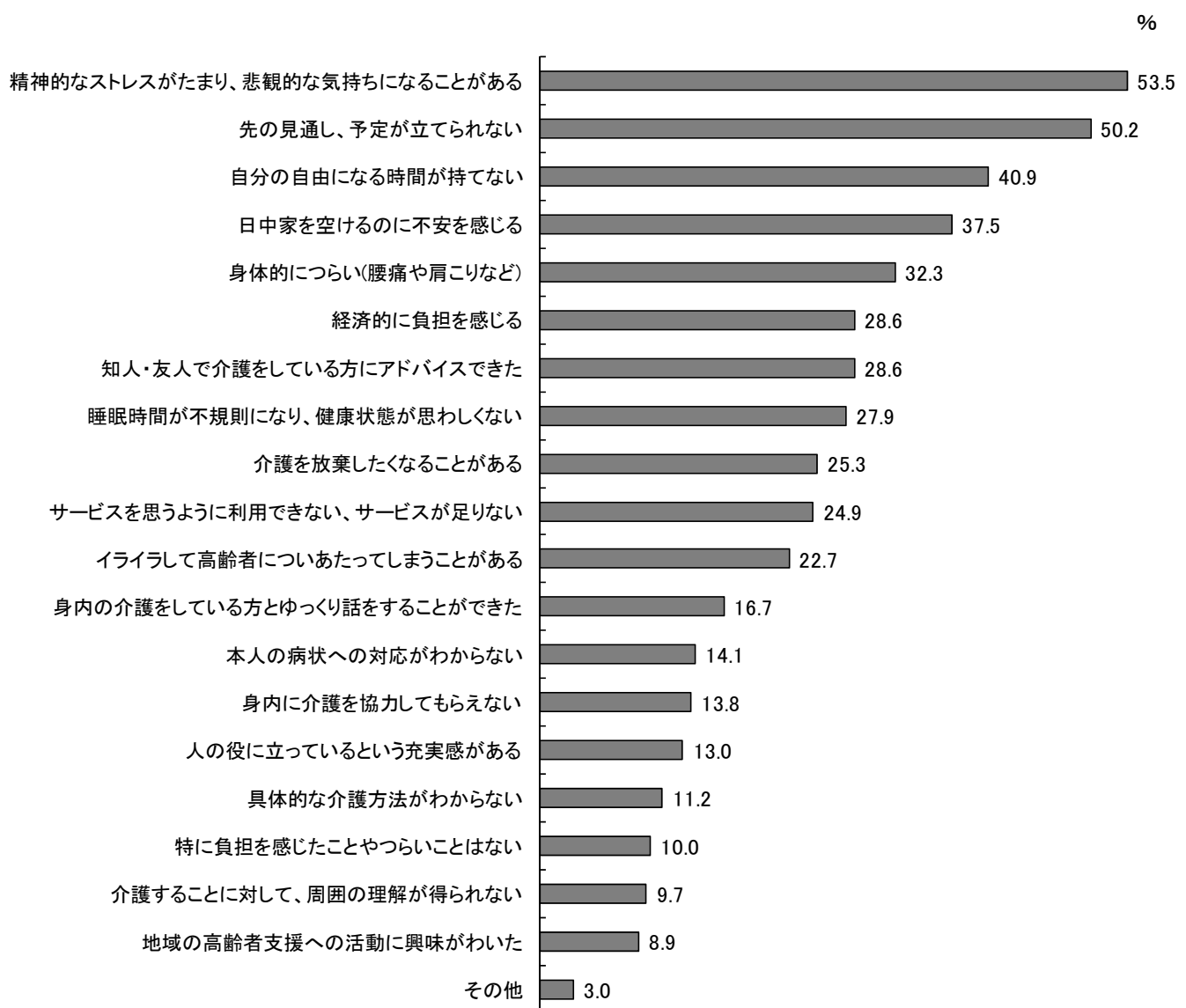
(9-1) 介護をされていて感じたこと

問9-1 介護をされていて感じたことは何ですか？(あてはまる番号すべてに)

問9で「現在介護している」「現在はしていないが、過去に介護したことがある」と回答した人に、介護をされていて感じたことをたずねた。

「精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある(53.5%)」と回答した人が最も多く、続いて「先の見通し、予定が立てられない(50.2%)」「自分の自由になる時間が持てない(40.9%)」「日中家を空けるのに不安を感じる(37.5%)」の順であった(図表3-14)。

図表3-14 介護をされていて感じたこと(複数回答)(N=270)





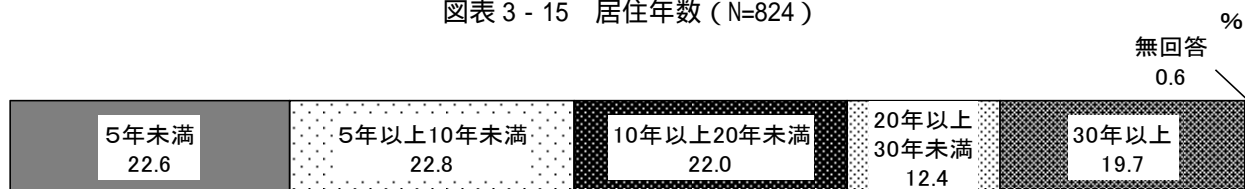
## 2. 住まいのこと

### (1) 居住年数

問 10 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

居住年数は、「5年以上10年未満（22.8%）」「5年未満（22.6%）」「10年以上20年未満（22.0%）」「30年以上（19.7%）」「20年以上30年未満（12.4%）」が、いずれも約2割の占率であった（図表3-15）。

図表3-15 居住年数（N=824）

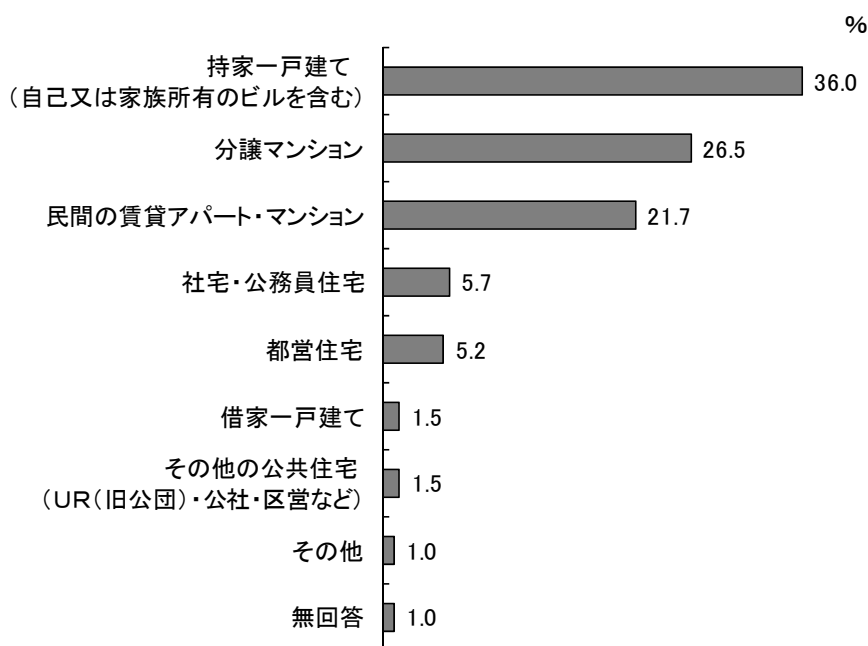


### (2) 住居形態

問 11 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（36.0%）」と「分譲マンション（26.5%）」を合わせて約6割であった。また「民間の賃貸アパート・マンション」は21.7%であった（図表3-16）。

図表3-16 住居形態（N=824）



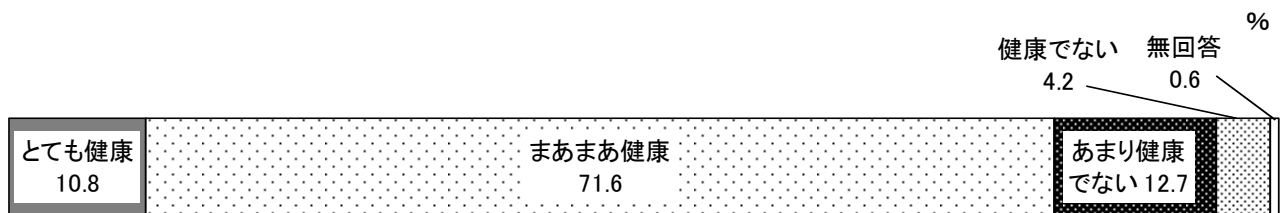
### 3. 健康状態

#### (1) 健康に関する認識

問 12 あなたは健康だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

自分が健康と思うか（主観的健康観）についてたずねた。「とても健康（10.8%）」「まあまあ健康（71.6%）」と回答した人は、合わせて約8割であった。一方、「あまり健康でない」「健康でない」と回答した人は、合わせて16.9%であった（図表3-17）。

図表3-17 健康に関する認識（N=824）

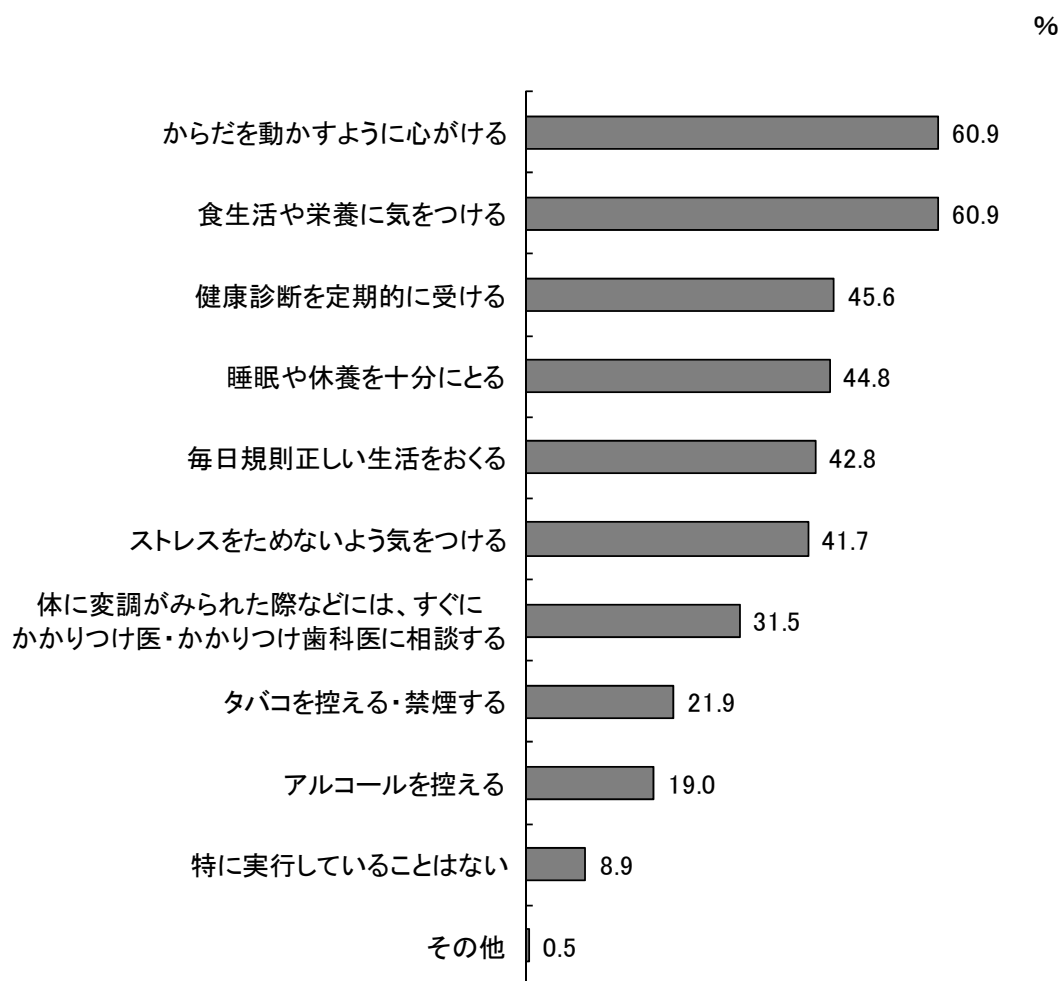


## (2) 健康な生活を送るために心がけていること

問 13 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？  
(あてはまる番号すべてに )

「からだを動かすように心がける」「食生活や栄養に気をつける」と回答した人がともに 60.9%で多く、続いて「健康診断を定期的に受ける (45.6%)」「睡眠や休養を十分にとる (44.8%)」の順であった。一方、「特に実行していることはない」と回答した人は、8.9%であった(図表 3-18)。

図表 3 - 18 健康な生活を送るために心がけていること (複数回答)(N=821)



(3) 治療中の病気

問 14 現在治療中の病気がありますか？ (あてはまる番号に1つ)

現在、治療中の病気があるかについては、「ある」と回答した人が42.2%、「ない」と回答した人が55.0%であった(図表3-19)。

図表 3 - 19 治療中の病気の有無 (N=824)

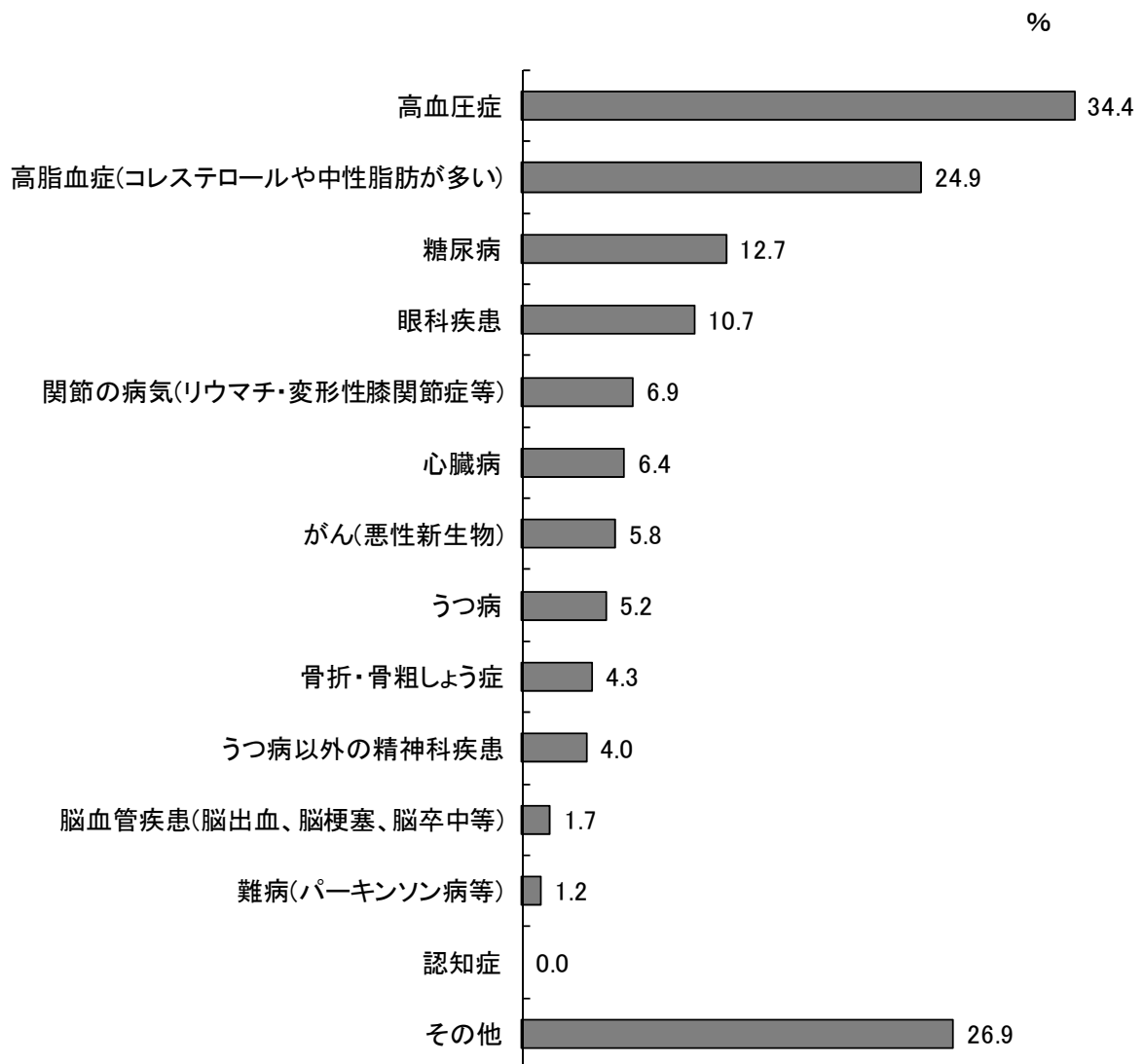


問 14-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 14 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

「高血圧症(コレステロールや中性脂肪が多い)(34.4%)」が最も多く、続いて「高脂血症(24.9%)」「糖尿病 (12.7%)」「眼科疾患 (10.7%)」の順であった(図表 3-20)。

図表 3 - 20 治療中の病気の種類(複数回答)(N=346)



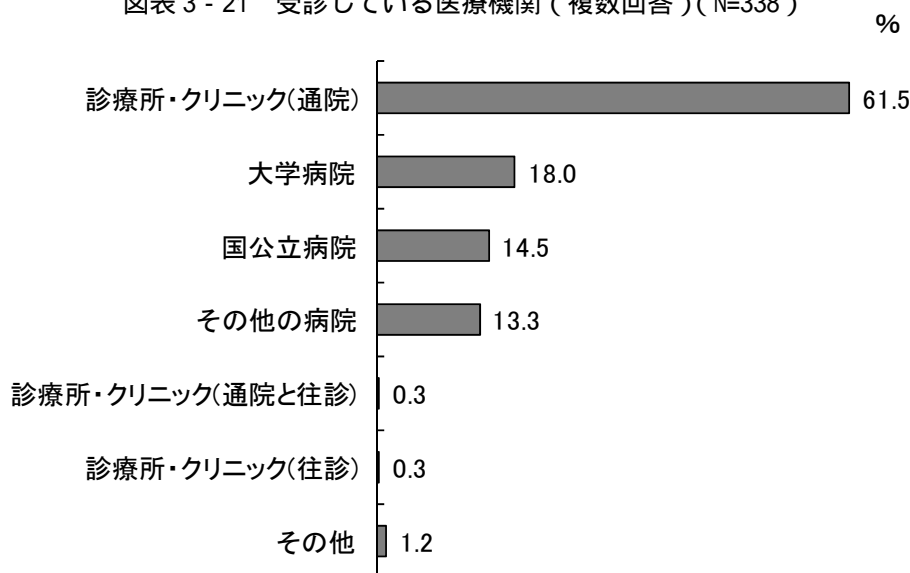
#### (4) 受診している医療機関

問 14-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 14 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。

「診療所・クリニック（通院）（61.5%）」が最も多く、続いて「大学病院（18.0%）」「国公立病院（14.5%）」の順であった（図表 3-21）。

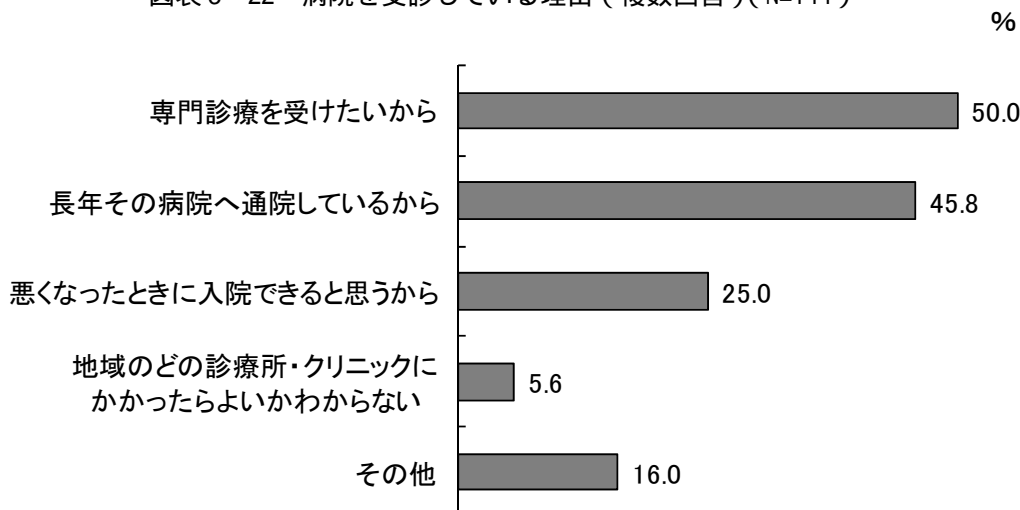
図表 3 - 21 受診している医療機関（複数回答）(N=338)



問 14-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？  
（あてはまる番号すべてに）

問 14-2 で、「国公立病院」「大学病院」「その他の病院」と回答した人に、診療所やクリニック以外に病院を受診している理由をたずねたところ、「専門診療を受けたいから（50.0%）」が最も多く、続いて「長年その病院へ通院しているから（45.8%）」「悪くなったときに入院できると思うから（25.0%）」の順であった（図表 3-22）。

図表 3 - 22 病院を受診している理由（複数回答）(N=144)



(5) かかりつけ医

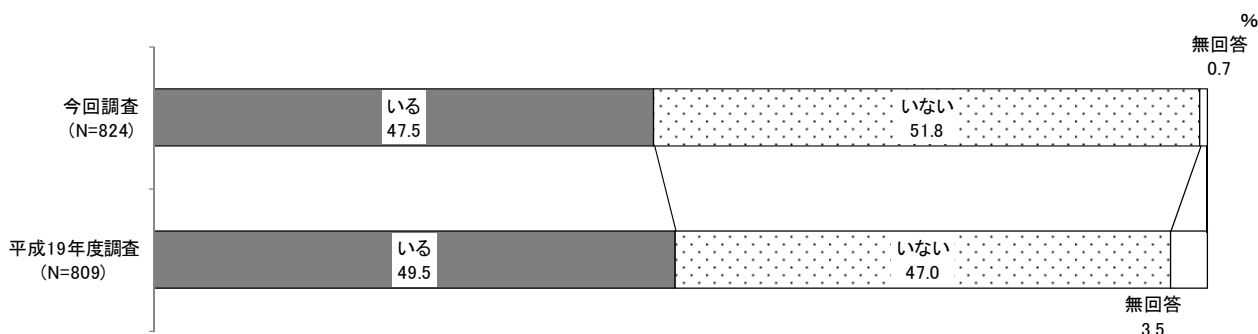
問 15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医が、「いる」と回答した人は、47.5%であった（図表 3-23）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較してみると、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、49.5%から 47.5%に減少している（図表 3-23）。

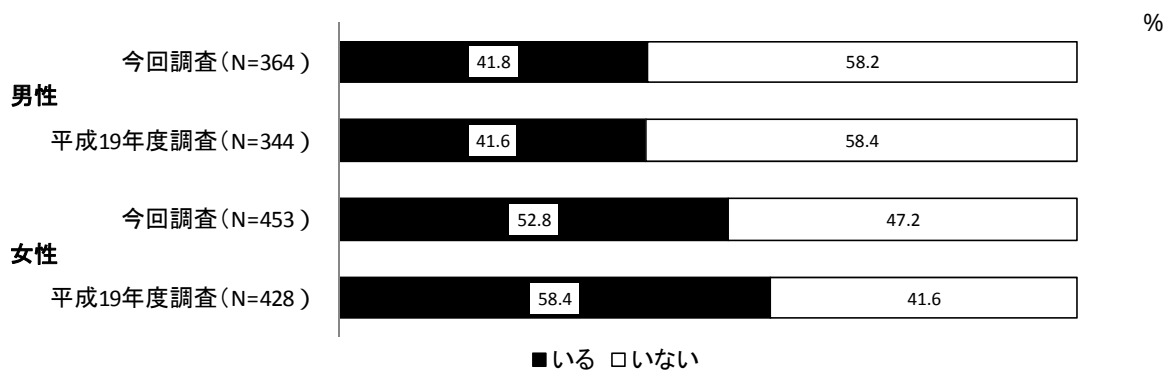
図表 3 - 23 かかりつけ医の有無（平成 19 年度調査調査との経年比較）



※ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。

性別で前回調査と比較すると、かかりつけ医が「いない」と回答した女性が増加した（図表 3-24）。

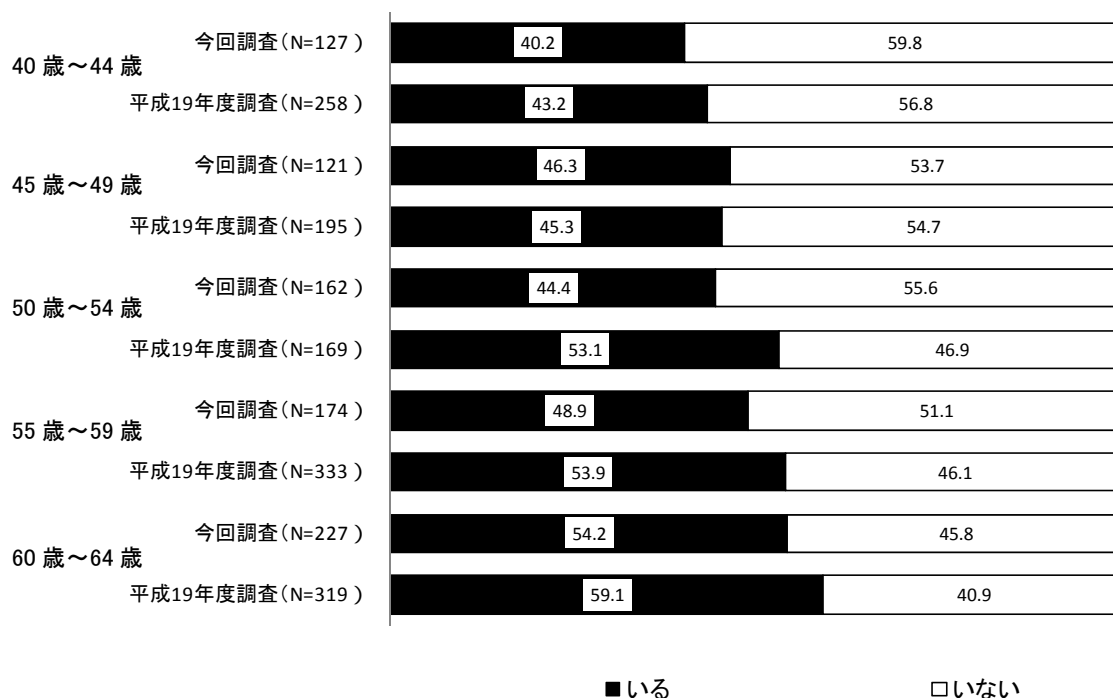
図表 3 - 24 かかりつけ医の有無（性別 / 平成 19 年度調査との経年比較）



「45歳～49歳」を除いて、どの年齢層で比較しても、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、前回調査から減少した（図表3-25）。

図表3-25 かかりつけ医の有無（年齢別 / 平成19年度調査との経年比較）

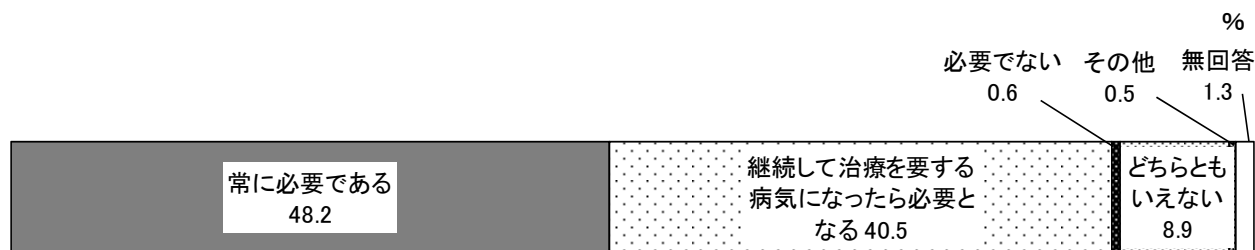
%



問16 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性について、「常に必要である（48.2%）」と回答した人は約5割であった。また「継続して治療を要する病気になったら必要となる」が40.5%であった（図表3-26）。

図表3-26 かかりつけ医の必要性（N=824）



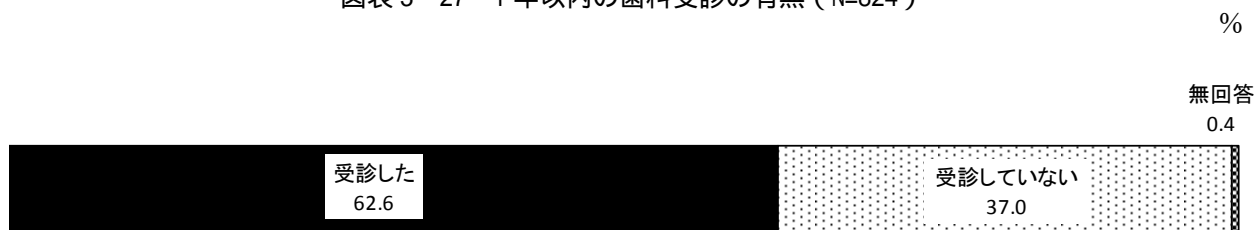


(6) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 17 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内の歯科受診の有無について、「受診した（62.6%）」と回答した人は約6割であった（図表3-27）。

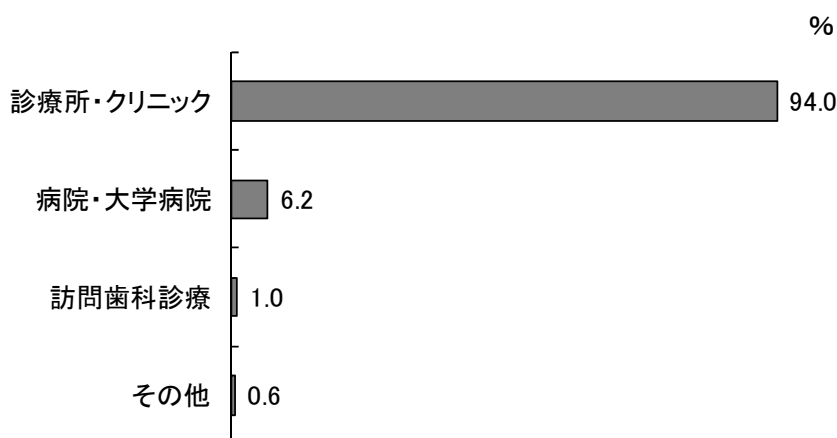
図表3-27 1年以内の歯科受診の有無（N=824）



問 17-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問17で、「受診した」と回答した人に、受診している歯科医療機関をたずねたところ、「診療所・クリニック（94.0%）」が9割以上であった。また「病院・大学病院」は6.2%であった（図表3-28）。

図表3-28 受診した歯科医療機関（複数回答）(N=514)



問 18 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？  
 (あてはまる番号に1つ)

自分の歯や口、入れ歯の状態についてたずねたところ、「ほぼ満足している」が42.6%、「やや不満だが日常生活には困らない」が47.5%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」は8.4%であった(図表3-29)。

図表3-29 歯や口、入れ歯の状態(N=824)



問 19 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

かかりつけ歯科医の有無についてたずねたところ、「いる(62.4%)」と回答した人は約6割であった(図表3-30)。

図表3-30 かかりつけ歯科医の有無(N=824)



※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(7) 在宅療養等

問 20 「在宅療養」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいかについて、「そう思う（49.2%）」と回答した人と「そう思わない（44.3%）」と回答した人は、ほぼ半々であった（図表 3-31）。

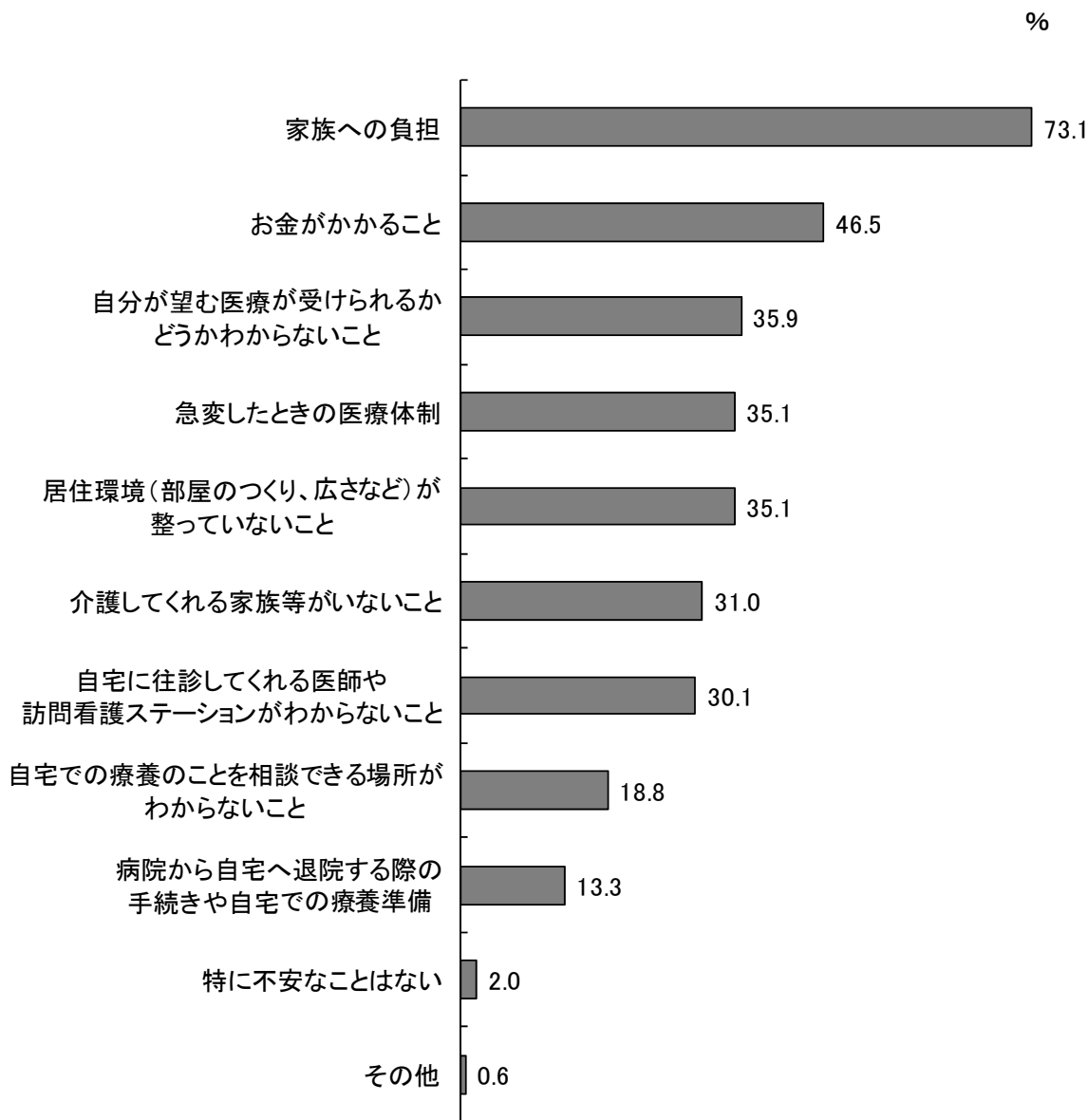
図表 3 - 31 在宅療養の希望（N=824）



**問 21 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか？  
(あてはまる番号すべてに )**

在宅療養を難しくする要因では、「家族への負担(73.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「お金がかかること(46.5%)」「自分が望む医療が受けられるかどうかわからないこと(35.9%)」の順であった(図表 3-32)。

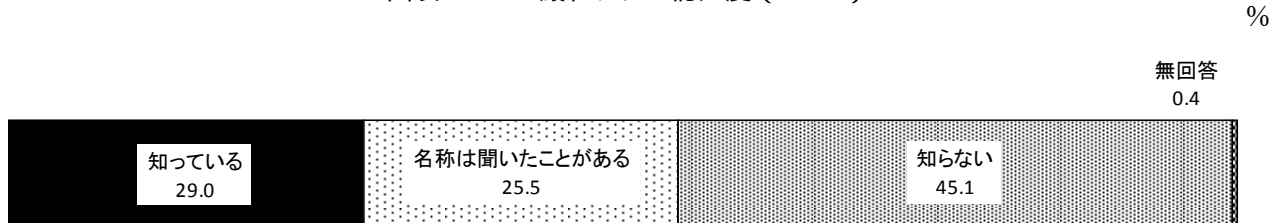
図表 3 - 32 在宅療養を難しくする要因(複数回答)(N=797)



問 22 あなたは、「緩和ケア」について知っていますか？（あてはまる番号に1つ）

「知らない」と回答した人が 45.1%と最も多かった。一方、「知っている（29.0%）」「名称は聞いたことがある（25.5%）」と回答した人は、各々約 3 割であった（図表 3-33）。

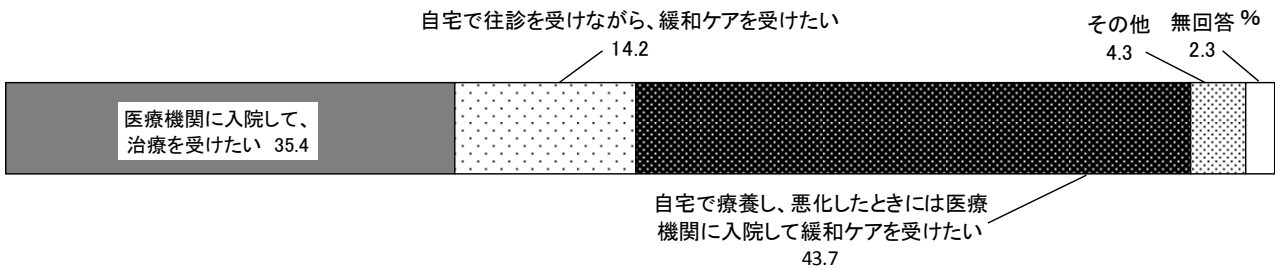
図表 3 - 33 緩和ケアの認知度（N=824）



問 23 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどこがいいですか？（あてはまる番号に1つ）

「自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい（43.7%）」と回答した人が最も多く、次いで「医療機関に入院して、治療を受けたい（35.4%）」であった（図表 3-34）。

図表 3 - 34 療養場所（N=824）



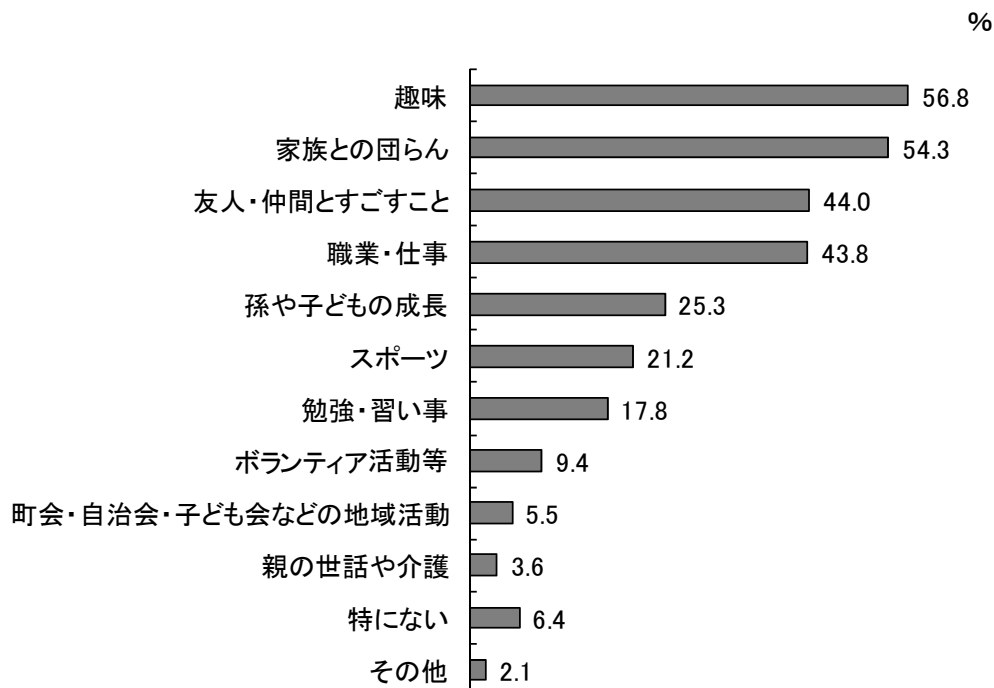
#### 4. いきがいづくりや社会参加

##### (1) いきがい

問 24 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに ）

「趣味（56.8%）」と回答した人が最も多く、続いて「家族との団らん（54.3%）」「友人・仲間とすごすこと（44.0%）」「職業・仕事（43.8%）」の順であった（図表 3-35）。

図表 3 - 35 いきがいを感ずること（複数回答）(N=822)



図表 3 - 36 いきがいを感ずること（性別 / 複数回答）

		職業・仕事	町会・自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間とすごすこと	家族との団らん	孫や子どもの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=366)	51.1	5.2	6.8	57.4	24.6	12.0	32.2	51.4	18.6	3.8	7.7	1.4
	女性 (N=455)	37.8	5.7	11.2	56.3	18.5	22.4	53.6	56.7	30.5	3.5	5.5	2.6

(2) 地域活動やボランティア活動等の状況

問 25 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子供会など、以下同様）やボランティア活動等  
をしていますか？（あてはまる番号に1つ）

「現在、継続的にしている（13.7%）」「時々している（9.2%）」と回答した人を合わせると、  
約2割であった。一方、「したことはない（65.2%）」と回答した人は、約7割であった（図表3-37）。

図表3-37 地域活動やボランティア活動等の状況（N=824）



図表3-38 地域活動やボランティア活動等の状況（性別）

(%)

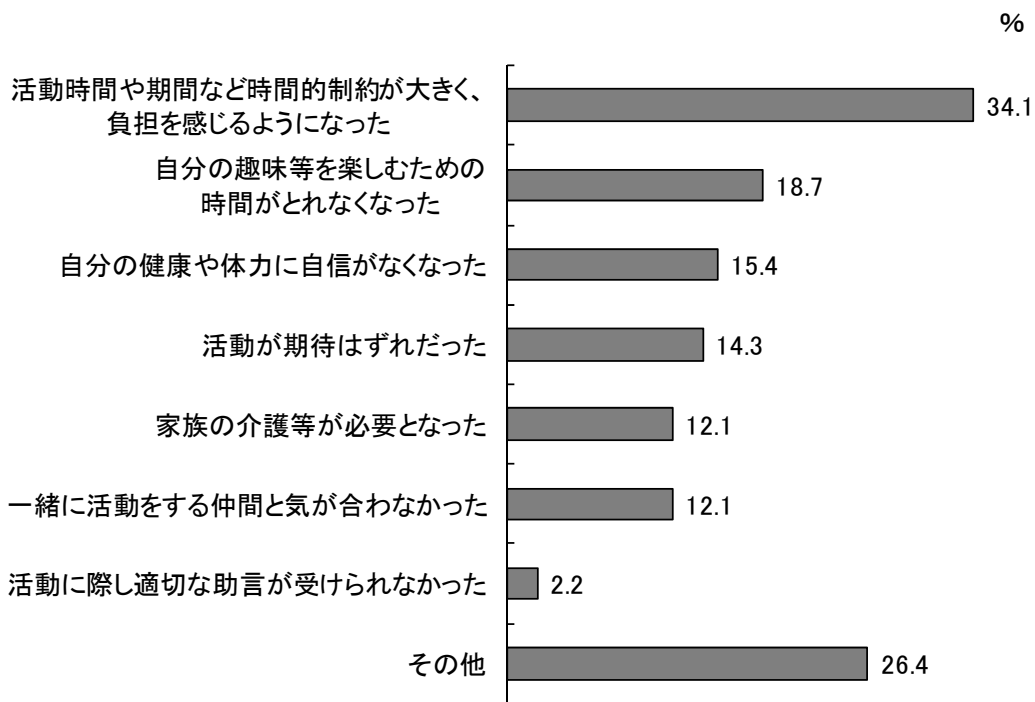
		現在、継続的にしている	時々している	以前したことがあるが、現在はほとんどしていない	したことはない	合計
性別	男性 (N=367)	12.3	7.6	9.8	70.3	100.0
	女性 (N=453)	14.8	10.6	13.0	61.5	100.0

問 25-1 現在、していない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

問 25 で、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」と回答した人に、現在していない理由をたずねた。

「活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった（34.1%）」が最も多く、続いて「自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった（18.7%）」「自分の健康や体力に自信がなくなった（15.4%）」の順であった（図表 3-39）。

図表 3 - 39 現在活動していない理由（複数回答）(N=91)



図表 3 - 40 現在活動していない理由（性別 / 複数回答）

		自信が健康な体力に	家族の介護等が必要となった	自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった	活動に際し適切な助言が受けられなかった	一緒に活動をする仲間と気が合わなかった	活動が期待はずれだった	時間的制約や期間など、負担を感じるようになった	その他
性別	男性 (N=34)	5.9	5.9	20.6	2.9	14.7	23.5	41.2	23.5
	女性 (N=57)	21.1	15.8	17.5	1.8	10.5	8.8	29.8	28.1



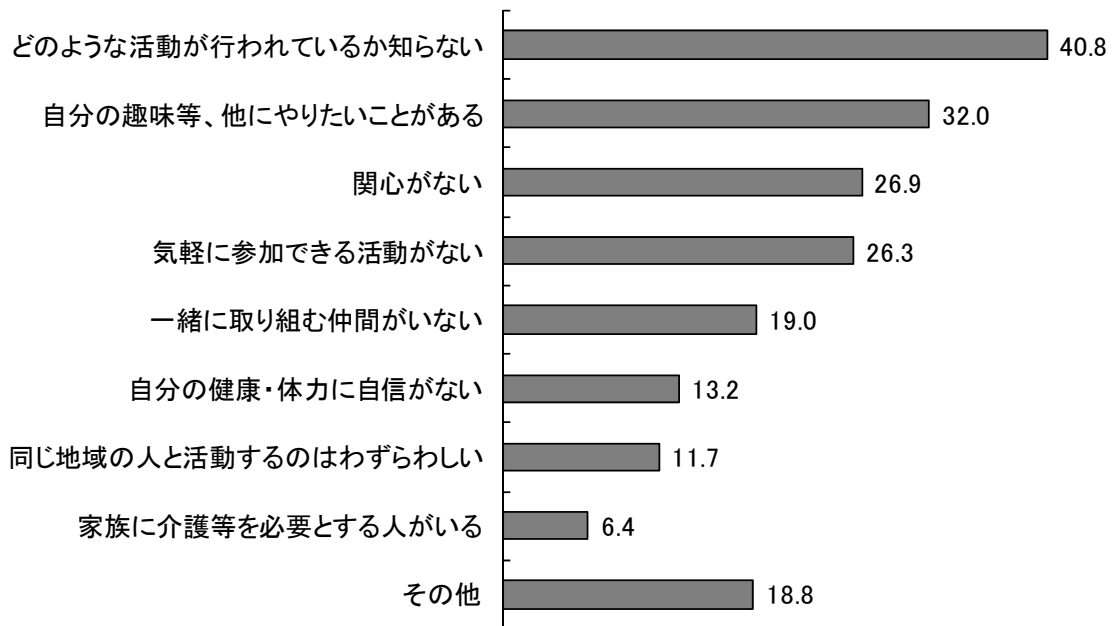
問 25-2 したことがない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

問 25 で、「したことはない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「どのような活動が行われているか知らない（40.8%）」が最も多く、続いて「自分の趣味等、他にやりたいことがある（32.0%）」「関心がない（26.9%）」「気軽に参加できる活動がない（26.3%）」の順であった（図表 3-41）。

図表 3 - 41 したことがない理由（複数回答）(N=532)

%



図表 3 - 42 したことがない理由（性別 / 複数回答）

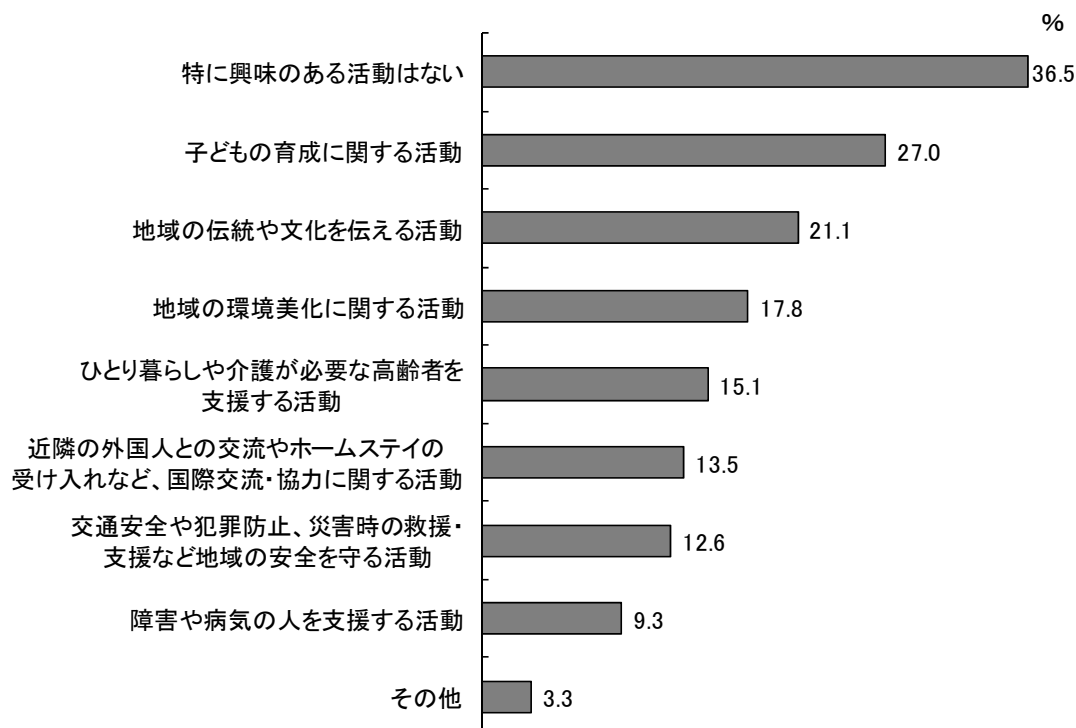
(%)

性別		関心がない	気軽に参加できる活動がない	一緒に取り組む仲間がいない	自分の趣味等、他にやりたいことがある	自分の健康・体力に自信がない	家族に介護等を必要とする人がいる	同じ地域の人と活動するのはわずらわしい	どのような活動が行われているか知らない	その他
		男性 (N=255)	32.9	28.2	19.2	31.8	11.4	3.9	15.3	41.2
女性 (N=277)	21.3	24.5	18.8	32.1	14.8	8.7	8.3	40.4	22.4	

問 25-3 興味のある地域活動やボランティア活動等（実際に取り組んでいるものも含む）はありますか？（あてはまる番号すべてに ）

「特に興味のある活動はない（36.5%）」と回答した人は約 4 割であった。一方、興味のある活動では、「子どもの育成に関する活動（27.0%）」と回答した人が最も多く、続いて「地域の伝統や文化を伝える活動（21.1%）」「地域の環境美化に関する活動（17.8%）」の順であった（図表 3-43）。

図表 3 - 43 興味のある地域活動やボランティア活動等（複数回答）(N=762)



図表 3 - 44 興味ある地域活動やボランティア活動等（性別 / 複数回答）

		子どもの育成に関する活動	ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動	障害や病気の人を支援する活動	救護・支援など地域の安全を守る活動	交通安全や犯罪防止、災害時の活動	地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化に関する活動	近隣の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流・協力に関する活動	特に興味のある活動はない	その他
性別	男性 (N=342)	22.8	9.6	5.0	19.3	19.0	17.3	9.6	40.6	3.2	
	女性 (N=419)	30.5	19.6	12.9	7.2	22.9	18.4	16.7	33.2	3.1	

問 25-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか？  
（あてはまる番号に1つ）

「積極的にしてみたい（5.3%）」「してみたい（29.7%）」と回答した人は、合わせて約 4 割であった（図表 3-45）。

図表 3 - 45 地域活動やボランティア活動等の意向（N=824）



図表 3 - 46 地域活動やボランティア活動等の意向（性別）

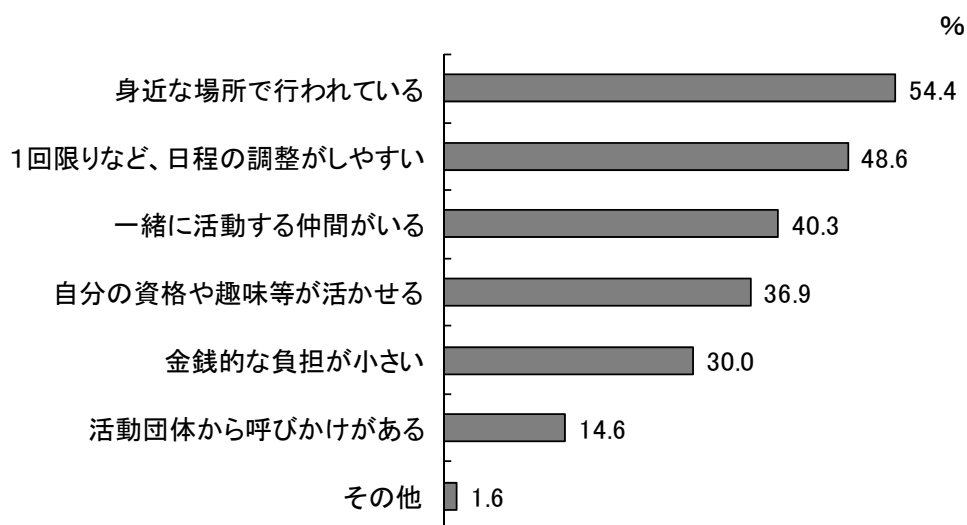
		積極的にしてみたい	してみたい	あまりしたくない	したくない	わからない	合計
性別	男性 (N=361)	6.1	27.1	20.5	17.5	28.8	100.0
	女性 (N=447)	4.7	32.9	19.0	9.8	33.6	100.0

問 25-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか？  
(あてはまる番号すべてに )

参加しやすい、地域活動やボランティア活動等についてたずねた。

「身近な場所で行われている (54.4%)」と回答した人が最も多く、続いて「1 回限りなど、日程の調整がしやすい (48.6%)」「一緒に活動する仲間がいる (40.3%)」「自分の資格や趣味等が活かせる (36.9%)」の順であった (図表 3-47)。

図表 3 - 47 参加しやすい活動の形態 (複数回答) (N=761)



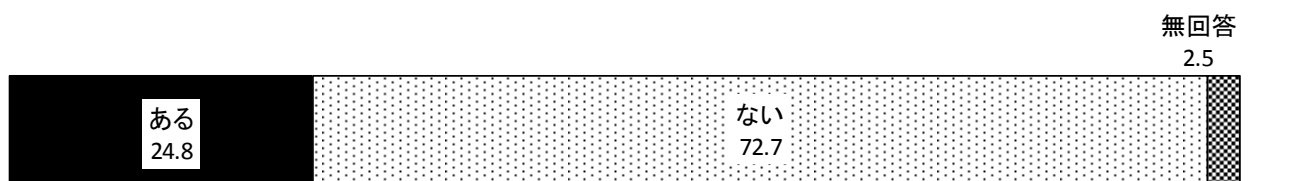
図表 3 - 48 参加しやすい活動の形態 (性別 / 複数回答)

		身近な場所で行われている	一緒に活動する仲間がいる	自分の資格や趣味等が活かせる	活動団体から呼びかけがある	金銭的な負担が小さい	1回限りなど、日程の調整がしやすい	その他
性別	男性 (N=338)	51.8	37.3	35.2	13.3	24.9	40.5	2.4
	女性 (N=422)	56.6	42.7	38.4	15.6	33.9	55.2	0.9

問 26 あなたは、地域活動やボランティア活動等に活かしたいと考えている特技・資格・経験などはありますか？  
また、ある方は、その内容を具体的にご記入ください。（あてはまる番号に1つ）

地域活動やボランティア活動等に活かしたいと考えている特技・資格等について、「ある」と回答した人は24.8%であった（図表3-49）。

図表3-49 地域活動やボランティア活動等に活かしたい特技・資格・経験などの有無（N=824）



図表3-50 地域活動やボランティア活動等に活かしたい特技・資格・経験などの有無（性別）

		（%）		
		ある	ない	合計
性別	男性（N=359）	21.4	78.6	100.0
	女性（N=443）	28.4	71.6	100.0

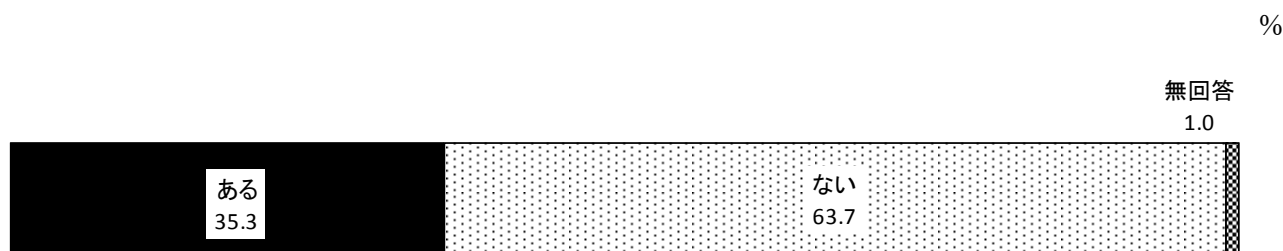
## 5. 認知症

### (1) 記憶力等の変化

問 27 あなたは、ここ 6 カ月から 1 年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じることはありますか？（あてはまる番号に 1 つ）

ここ 6 カ月から 1 年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じる人が「ある」と回答した人は 35.3%であり、「ない」と回答した人は 63.7%であった（図表 3-51）。

図表 3 - 51 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=824）



図表 3 - 52 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（年齢別）

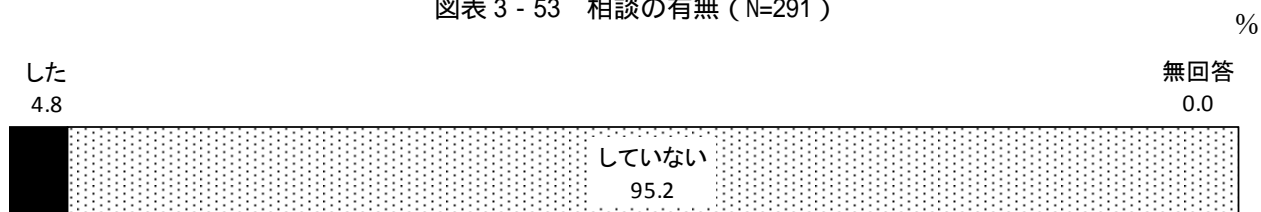
(%)

		ある	ない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	25.2	74.8	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	24.2	75.8	100.0
	50歳～54歳 (N=159)	39.0	61.0	100.0
	55歳～59歳 (N=176)	40.3	59.7	100.0
	60歳～64歳 (N=227)	41.0	59.0	100.0

問 27-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？  
 (あてはまる番号に1つ)

問 27 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。  
 相談を「していない」と回答した人は 95.2%と、ほとんどであった(図表 3-53)。

図表 3 - 53 相談の有無 (N=291)



図表 3 - 54 記憶力等の低下などについての相談有無 (年齢別)

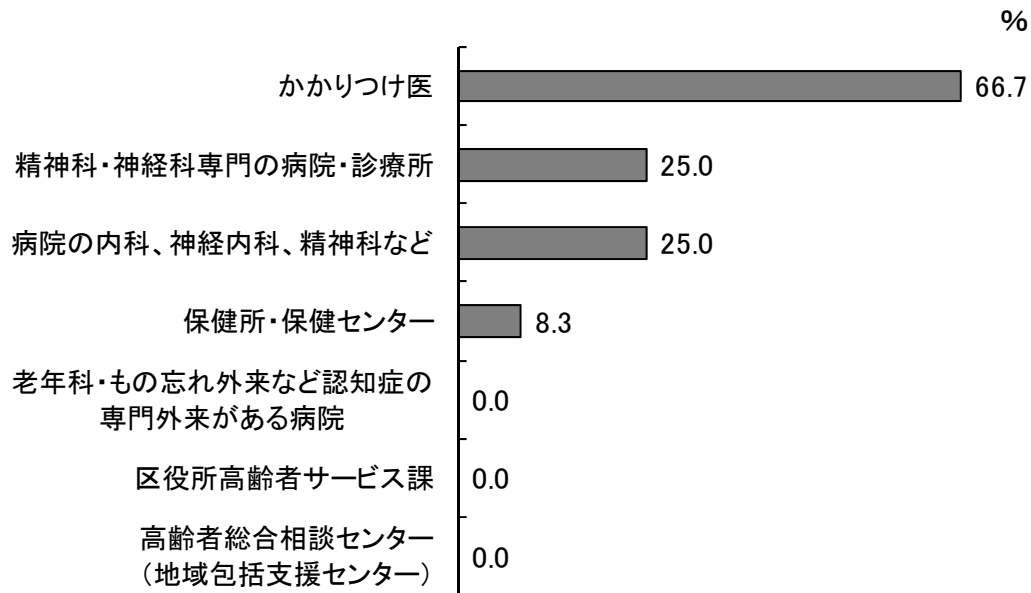
		(%)		
		した	していない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=32)	6.3	93.8	100.0
	45歳～49歳 (N=29)	6.9	93.1	100.0
	50歳～54歳 (N=62)	3.2	96.8	100.0
	55歳～59歳 (N=71)	4.2	95.8	100.0
	60歳～64歳 (N=93)	4.3	95.7	100.0

問 27-2 どちらに相談しましたか？（あてはまる番号すべてに ）

問 27-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。

「かかりつけ医（66.7%）」が約 7 割と最も多く、続いて「精神科・神経科専門の病院・診療所（25.0%）」「病院の内科、神経内科、精神科など（25.0%）」の順であった（図表 3-55）。

図表 3 - 55 相談先（複数回答）(N=12)



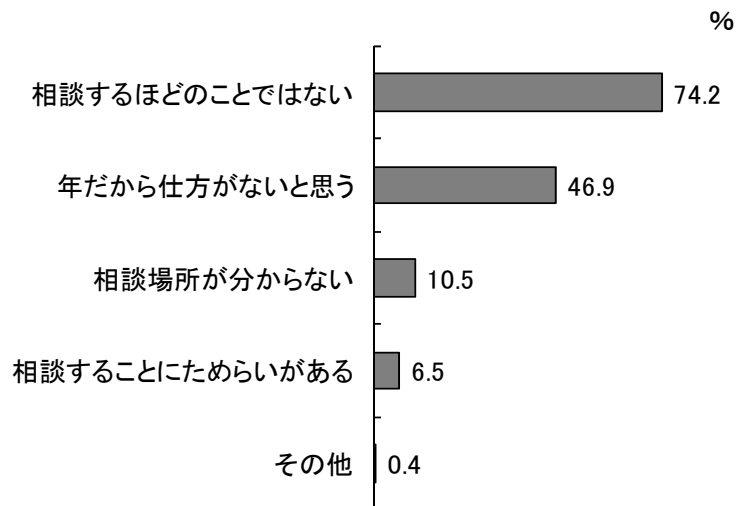


問 27-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 27-1 で相談していないと回答した人に、その理由をたずねた。

「相談するほどのことではない（74.2%）」が約 7 割と最も多く、続いて「年だから仕方がないと思う」が 46.9%であった（図表 3-56）。

図表 3 - 56 相談していない理由（複数回答）(N=275)



図表 3 - 57 相談していない理由（年齢別 / 複数回答）

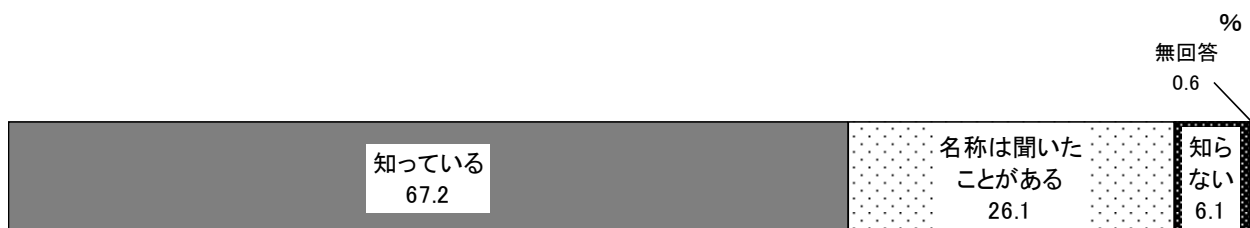
		と年 思だ うか ら 仕 方 が な い	で相 談す る ほ ど の こ と	た相 め談 ら す る こ と に	分相 か談 ら な い が	そ の 他
年 齢 区 分	40歳～44歳 (N=30)	30.0	76.7	13.3	6.7	0.0
	45歳～49歳 (N=27)	29.6	81.5	0.0	11.1	0.0
	50歳～54歳 (N=60)	38.3	68.3	8.3	8.3	1.7
	55歳～59歳 (N=67)	46.3	77.6	7.5	10.4	0.0
	60歳～64歳 (N=88)	63.6	71.6	4.5	13.6	0.0

(2) 若年性認知症の認知度

問 28 あなたは、「若年性認知症」という病気をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

若年性認知症について、「知っている」と回答した人は67.2%、「知らない」と回答した人は6.1%であった（図表3-58）。

図表3-58 若年性認知症の認知度（N=824）



図表3-59 若年性認知症の認知度（年齢別）

		%			
		知っている	名称は聞いたことがある	知らない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	63.8	27.6	8.7	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	61.7	27.5	10.8	100.0
	50歳～54歳 (N=162)	72.8	23.5	3.7	100.0
	55歳～59歳 (N=175)	71.4	25.1	3.4	100.0
	60歳～64歳 (N=228)	66.2	28.1	5.7	100.0

### (3) 認知症サポーター

問 29 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーターについて、「知らない（80.2%）」と回答した人は、約8割であった。一方、「知っている」と回答した人は、6.1%であった（図表3-60）。

図表3-60 認知症サポーターの認知度（N=824）



図表3-61 認知症サポーターの認知度（年齢別）

		(%)			
		知っている	名称は聞いたことがある	知らない	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=127)	3.1	7.1	89.8	100.0
	45歳～49歳 (N=120)	5.0	7.5	87.5	100.0
	50歳～54歳 (N=162)	6.8	13.6	79.6	100.0
	55歳～59歳 (N=176)	5.1	14.2	80.7	100.0
	60歳～64歳 (N=225)	7.6	17.8	74.7	100.0

問 30 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いますか？  
 (あてはまる番号に1つ)

認知症サポーター養成講座の受講希望について、「受講したい」と回答した人は 39.4%であった (図表 3-62)。

図表 3 - 62 認知症サポーター養成講座の受講意向 (N=824)



図表 3 - 63 認知症サポーター養成講座の受講意向 (年齢別)

		(%)			
		受講したい	受講したくない	すでに受講した	合計
年齢区分	40歳～44歳 (N=126)	43.7	55.6	0.8	100.0
	45歳～49歳 (N=115)	45.2	52.2	2.6	100.0
	50歳～54歳 (N=146)	43.8	54.8	1.4	100.0
	55歳～59歳 (N=170)	43.5	55.9	0.6	100.0
	60歳～64歳 (N=211)	36.5	62.6	0.9	100.0

(平成 19 年度調査との比較) ※比較可能な項目のみ

平成 19 年度調査と比較すると、「受講したい」と回答した人が、32.0%から 39.4%へ増加した(図表 3-64)。

図表 3 - 64 認知症サポーター養成講座の受講意向(平成 19 年度調査との経年比較)

		%
		受講したい
今回調査	(N=824)	39.4
平成19年度調査	(N=809)	32.0

性別で比較すると、「受講したい」と回答した人が、男女とも増加した(図表 3-65)。

図表 3 - 65 認知症サポーター養成講座の受講意向(性別/平成 19 年度調査との経年比較)

	%			
	今回調査		平成19年度調査	
男性	(N=357)	36.1	(N=354)	28.8
女性	(N=419)	46.8	(N=441)	35.1

どの年齢層で比較しても、「受講したい」と回答した方が、平成 19 年度調査から増加した(図表 3-66)。

図表 3 - 66 認知症サポーター養成講座の受講意向(年齢別/平成 19 年度調査との経年比較)

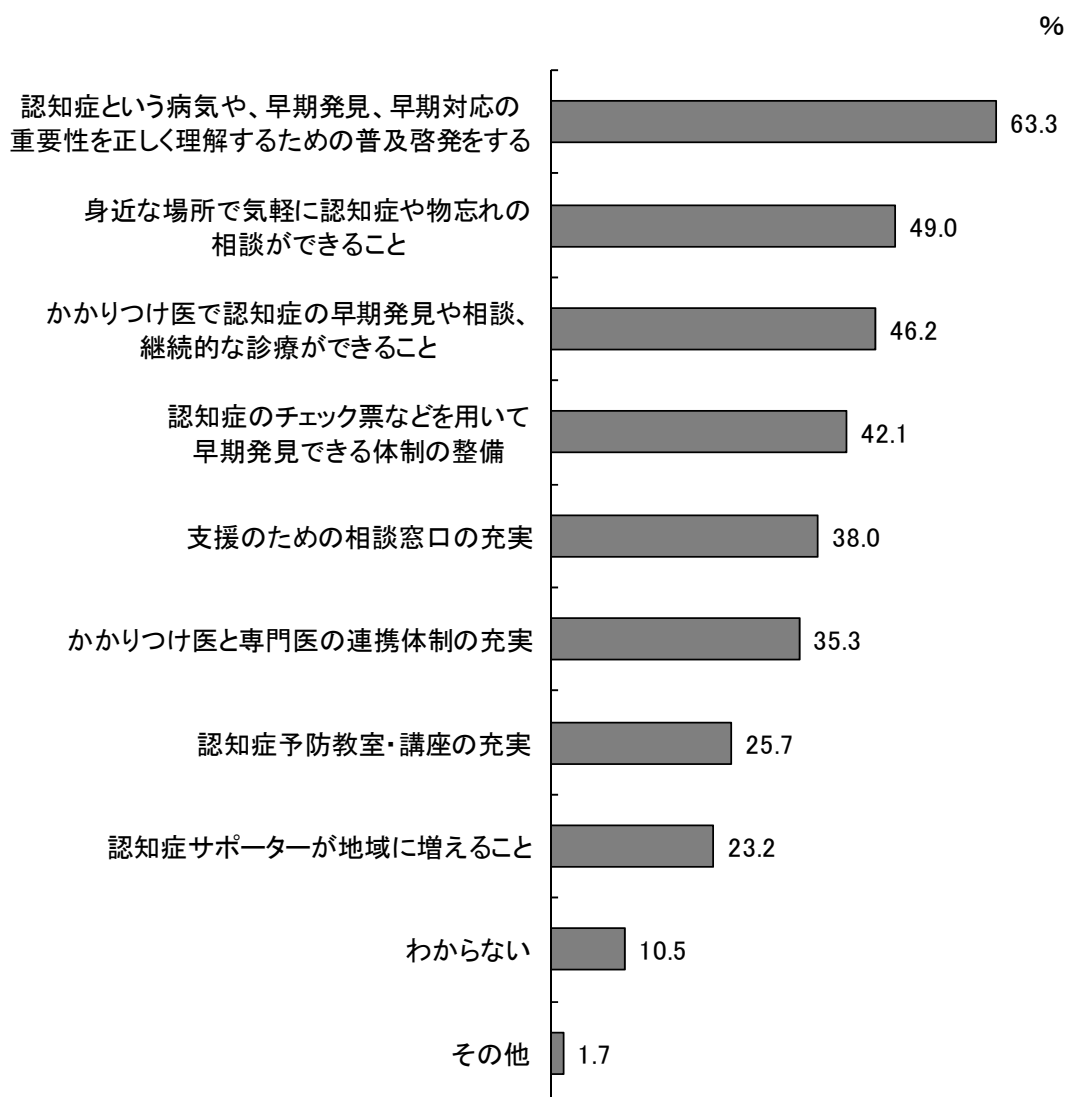
	%			
	今回調査		平成19年度調査	
40歳～44歳	(N=126)	43.7	(N=161)	36.0
45歳～49歳	(N=116)	44.8	(N=142)	31.7
50歳～54歳	(N=146)	43.8	(N=132)	30.3
55歳～59歳	(N=170)	43.5	(N=187)	31.0
60歳～64歳	(N=212)	36.8	(N=181)	31.5

(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 31 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？  
(あてはまる番号すべてに )

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする(63.3%)」と回答した人が最も多く、続いて「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること(49.0%)」「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること(46.2%)」の順であった(図表3-67)。

図表3-67 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと(複数回答)(N=810)



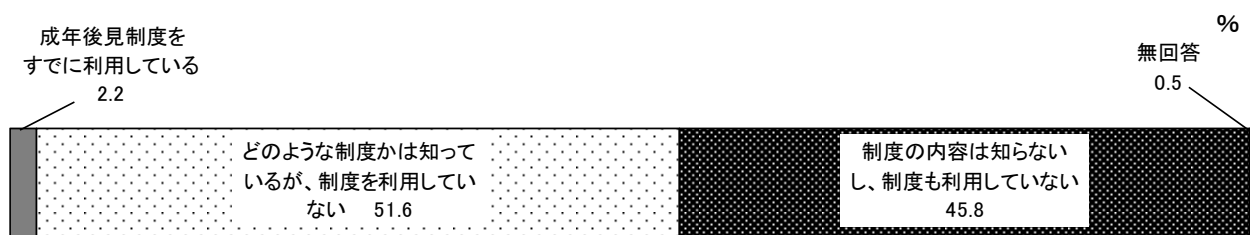
## 6. 権利擁護

### (1) 成年後見制度の認知度

問 32 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「どのような制度かは知っているが、制度を利用していない（51.6%）」「制度の内容は知らないし、制度も利用していない（45.8%）」と回答した人が、各々約5割であった（図表3-68）。

図表 3 - 68 成年後見制度の認知度（N=824）

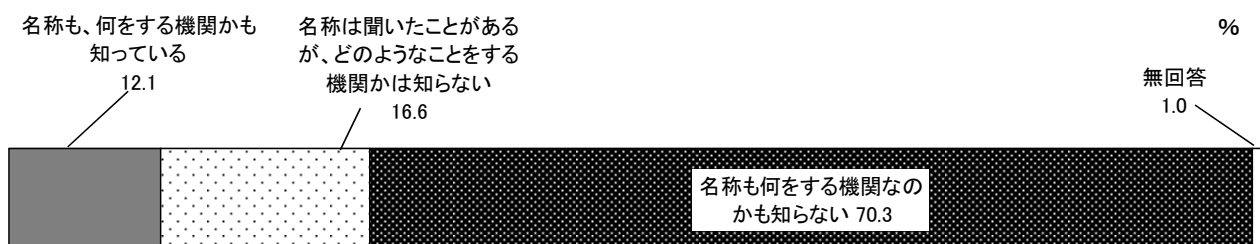


### (2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 33 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も何をする機関なのかも知らない（70.3%）」と回答した人は、約7割であった。一方、「名称も、何をする機関かも知っている」と回答した人は12.1%であった（図表3-69）。

図表 3 - 69 新宿区成年後見センターの認知度（N=824）

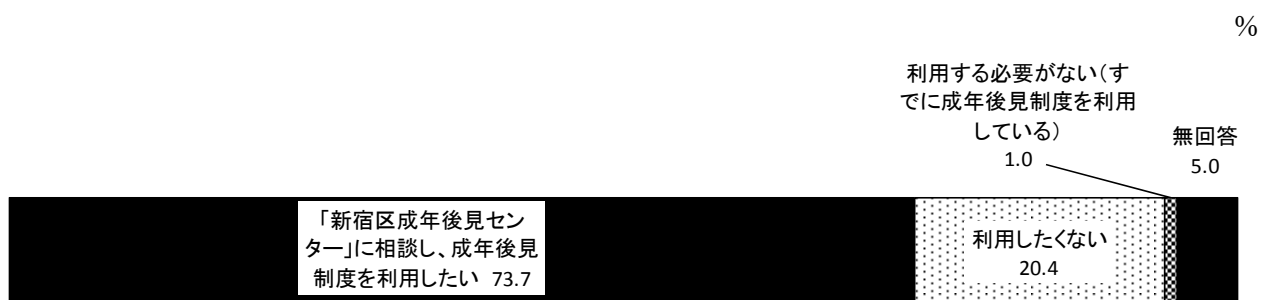


### (3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 34 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？  
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業内容を説明したうえで利用意向についてたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(73.7%)」と回答した人は約7割であった(図表3-70)。

図表3-70 新宿区成年後見センターの利用意向(N=824)





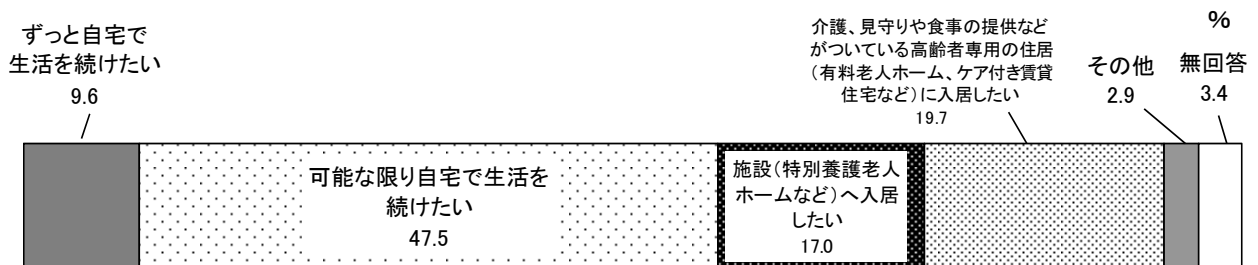
## 7. 介護が必要になったときのこと

### (1) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか

問 35 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？  
(あてはまる番号に1つ)

介護が必要となったときの住まい方について、「ずっと自宅で生活を続けたい (9.6%)」「可能な限り自宅で生活を続けたい (47.5%)」と回答した人を合わせると、約 6 割であった。一方、「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居に入居したい」と回答した人は 19.7%、「施設 (特別養護老人ホームなど) へ入居したい」は 17.0%であった (図表 3-71)。

図表 3 - 71 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか (N=824)

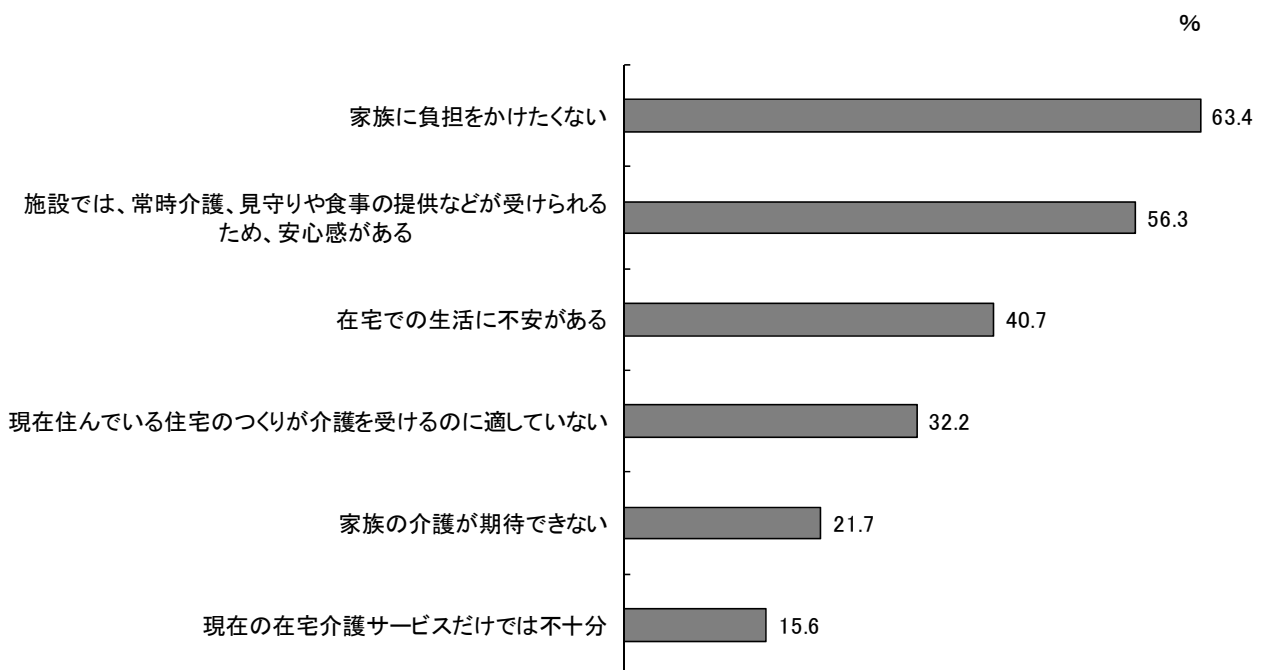


問 35-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」と回答した人にその理由をたずねた。

「家族に負担をかけたくない（63.4%）」が最も多く、次いで「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（56.3%）」であった（図表 3-72）。

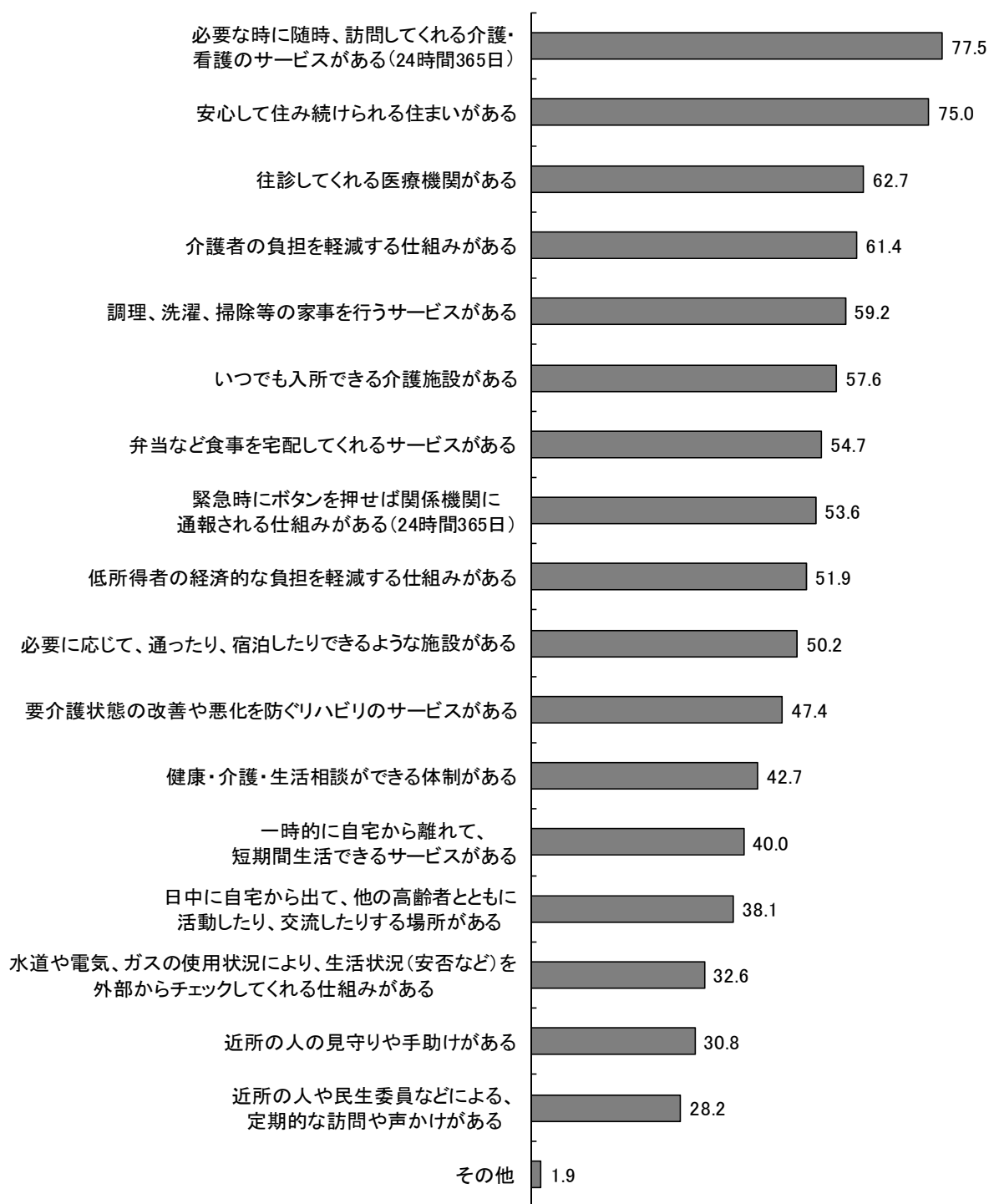
図表 3 - 72 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（複数回答）(N=295)



問 36 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？  
（あてはまる番号すべてに ）

「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある（24時間365日）（77.5%）」と回答した人が最も多く、続いて「安心して住み続けられる住まいがある（75.0%）」「往診してくれる医療機関がある（62.7%）」の順であった（図表 3-73）。

図表 3 - 73 在宅で暮らし続けるために必要なこと（複数回答）(N=804) %



## 8. 介護保険制度

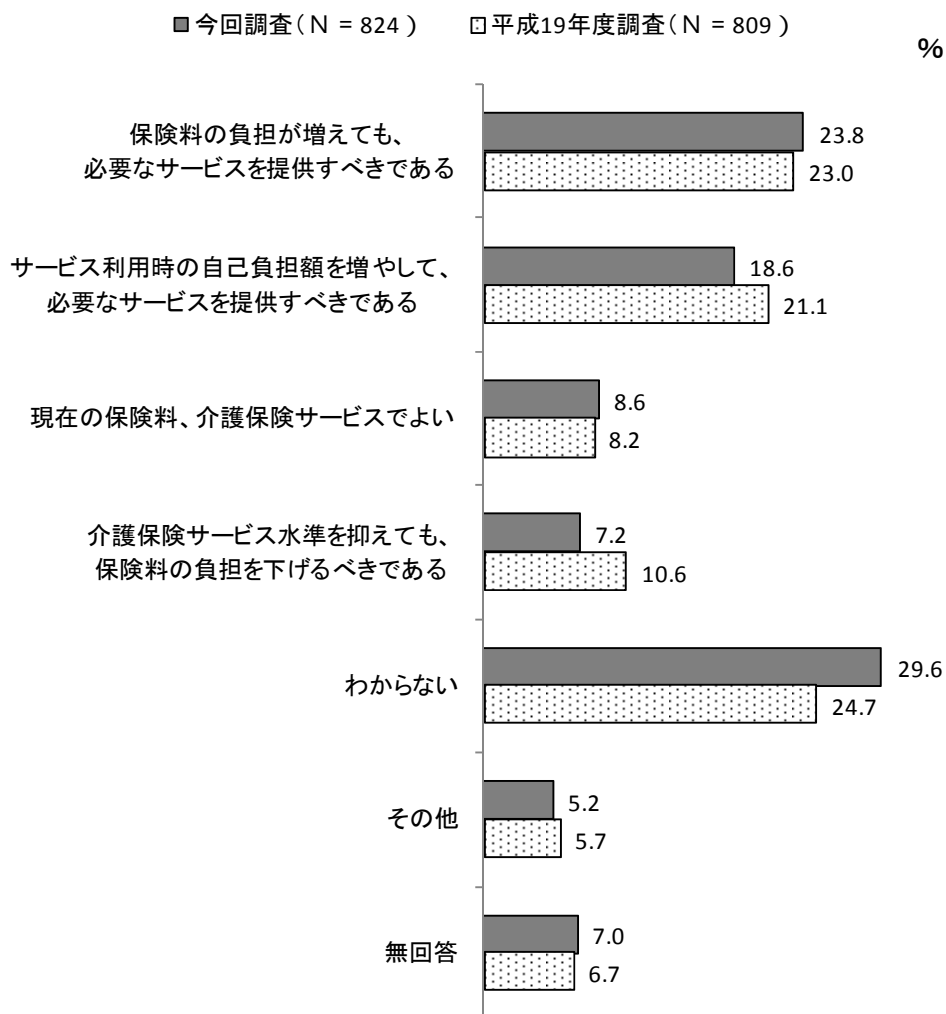
問 37 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？  
 (あてはまる番号に1つ)

介護保険サービスと保険料についての考えでは、「わからない(29.6%)」と回答した人が最も多く、次いで「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである(23.8%)」であった。一方、「介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」と回答した人は、7.2%であった(図表3-74)。

(平成19年度調査との比較)

今回調査では、平成19年度調査と同様に、「わからない」と回答した人が最も多く、次いで「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである」であった(図表3-75)。

図表3-74 介護保険サービスと保険料についての考え(平成19年度調査との経年比較)



図表 3 - 75 保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		保険料の負担が増えなくても、必要なサービスを提供すべきである	サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである	現在の保険料、介護保険サービスでよい	あるも、介護保険サービスの負担を下げるべきである	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=28)	25.0	7.1	7.1	10.7	50.0	0.0	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=75)	18.7	8.0	6.7	13.3	44.0	9.3	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=73)	23.3	13.7	9.6	12.3	35.6	5.5	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=126)	19.8	15.1	13.5	8.7	38.1	4.8	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=111)	27.9	22.5	5.4	6.3	33.3	4.5	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=139)	28.1	24.5	7.9	6.5	25.9	7.2	100.0
	1000万円以上 (N=164)	32.3	26.2	10.4	4.9	21.3	4.9	100.0
	わからない (N=31)	16.1	29.0	3.2	6.5	35.5	9.7	100.0

## 9. 情報や相談

### (1) 区のホームページの閲覧状況

問 38 あなたは新宿区のホームページをご覧になったことがありますか？  
(あてはまる番号に1つ)

新宿区のホームページの閲覧状況について、「見たことがある」が 41.0%に対し、「見たことがない」は 57.3%であった(図表 3-76)。

図表 3 - 76 区のホームページの閲覧状況 (N=824)



### (2) 高齢者総合相談センターについての認知度

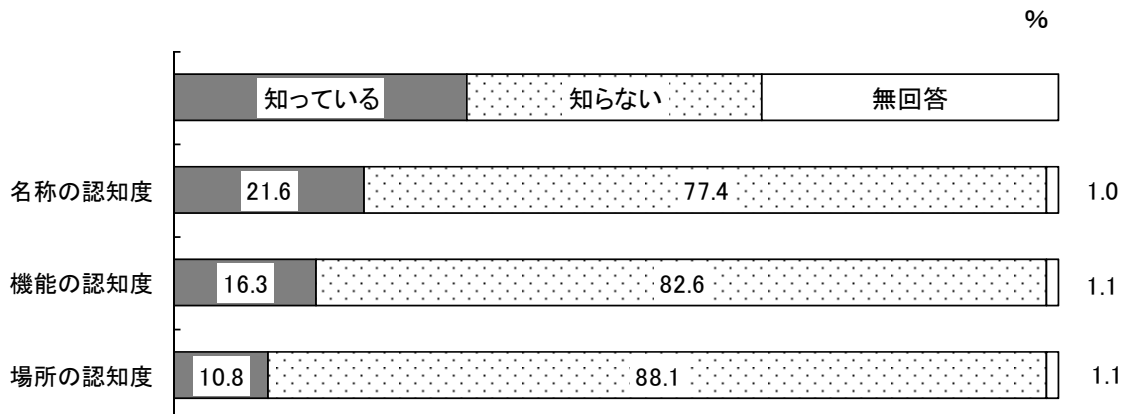
問 39-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

問 39-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

問 39-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？(あてはまる番号に1つ)

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所についてそれぞれ「知らない」と回答した人は、77.4%、82.6%、88.1%であった(図表 3-77)。

図表 3 - 77 高齢者総合相談センターの認知度(名称・機能・場所)(N=824)

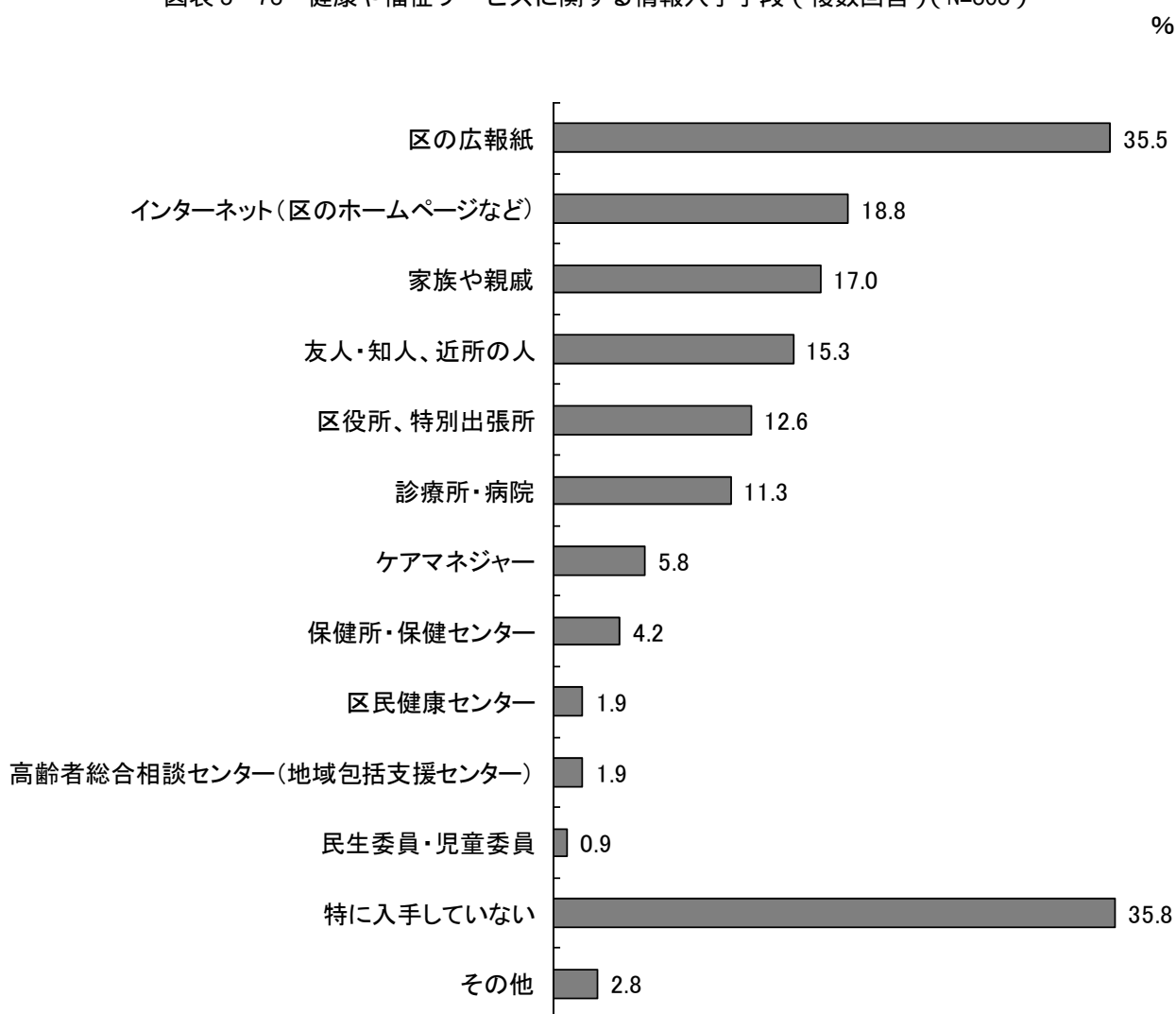


### (3) 福祉や健康に関する情報入手手段

問40 あなたは日ごろ、福祉のサービスや健康に関する情報をどのような手段で入手していますか？  
(あてはまる番号すべてに)

福祉サービスや健康に関する情報の入手手段では、「区の広報紙（35.5%）」と回答した人が最も多く、続いて「インターネット（区のホームページなど）（18.8%）」「家族や親戚（17.0%）」「友人・知人・近所の人（15.3%）」の順であった。一方で「特に入手していない」と回答した人は35.8%であった（図表3-78）。

図表3-78 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=808)

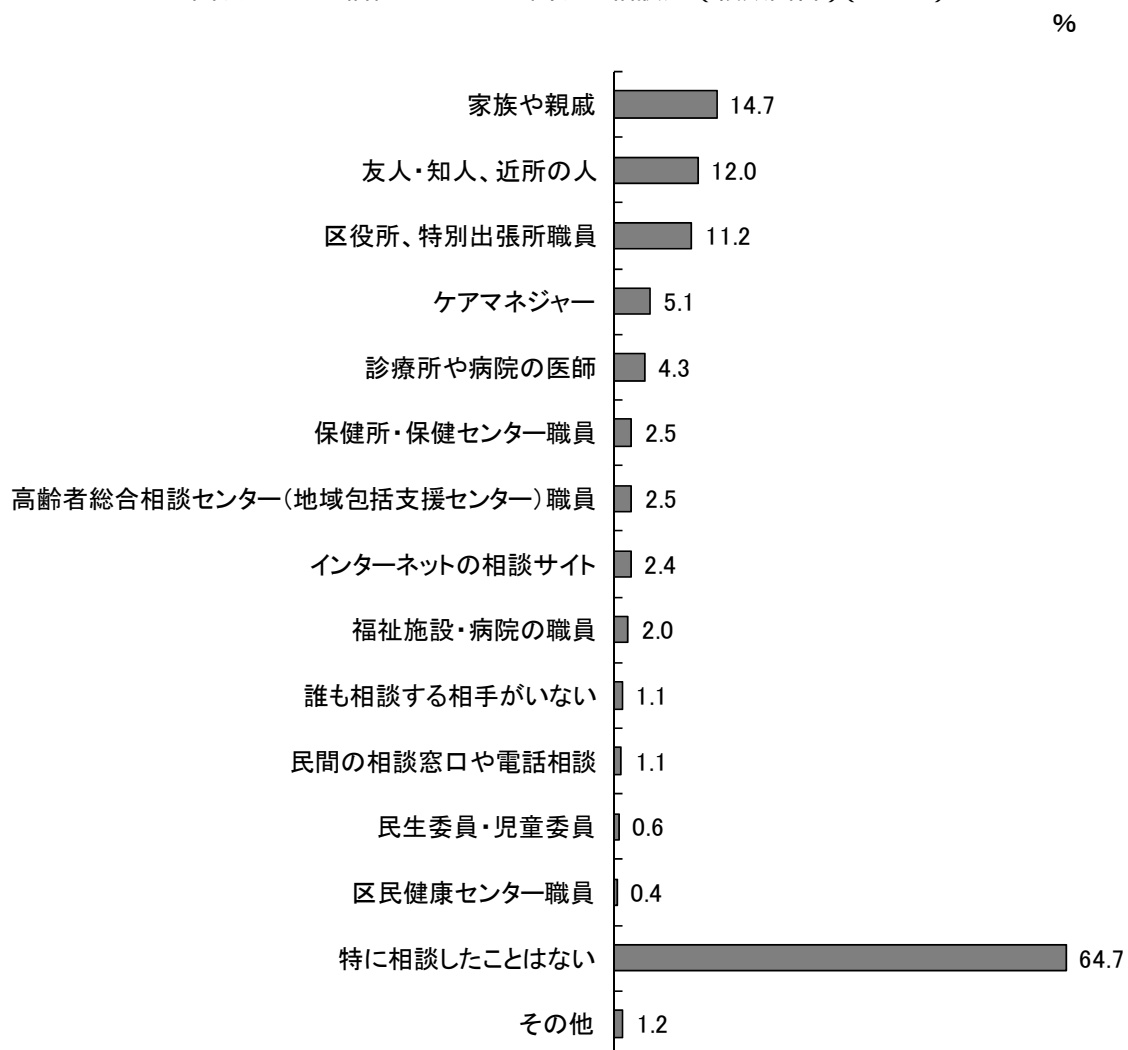


#### (4) 福祉に関する相談先

問 41 あなたは日ごろ、福祉のサービスに関して、誰（どこ）に相談していますか？  
（あてはまる番号すべてに ）

福祉サービスに関する相談先では、「家族や親戚（14.7%）」と回答した人が最も多く、続いて「友人・知人、近所の人（12.0%）」、「区役所、特別出張所職員（11.2%）」の順であった。一方で「特に相談したことはない」と回答した人は64.7%であった（図表 3-79）。

図表 3 - 79 福祉サービスに関する相談先（複数回答）(N=807)



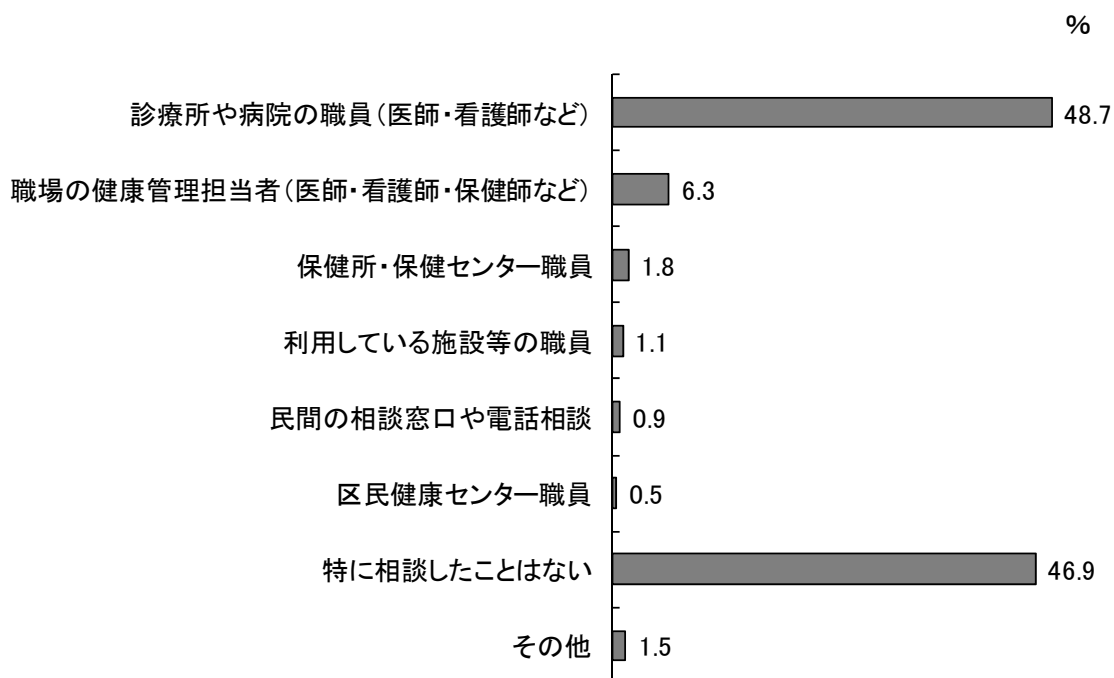


## (5) 健康管理や病気に関する相談先

問 42 あなたは日ごろ、ご家族や友人、知人以外で健康管理や病気に関して、誰（どこ）に相談していますか？（あてはまる番号すべてに ）

家族や友人、知人以外で健康管理や病気に関する相談先では、「診療所や病院の職員（医師・看護師など）（48.7%）」と回答した人が約5割と最も多かった。一方、「特に相談したことはない」と回答した人も46.9%であった（図表3-80）。

図表3-80 健康管理や病気に関する相談先（複数回答）(N=811)

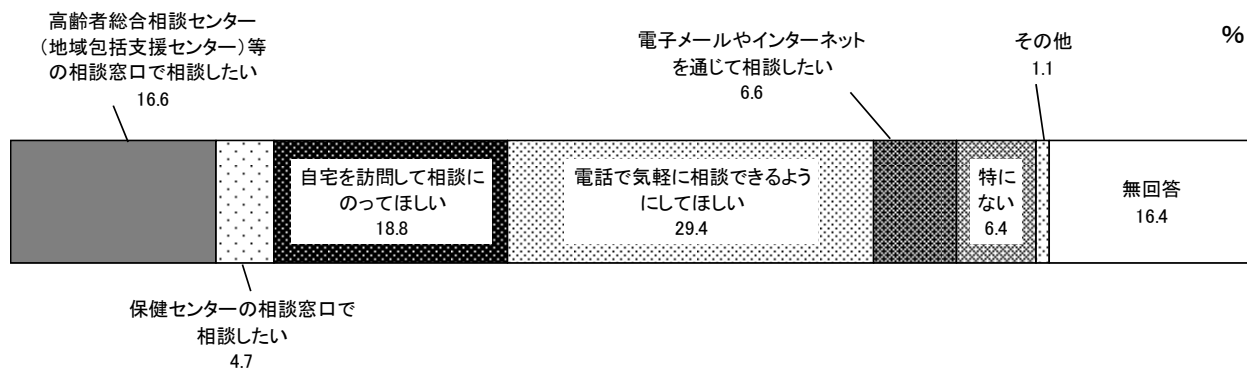


(6) 介護が必要になった場合に望む相談体制

問 43 あなたに介護が必要になった場合、どのような相談体制を望みますか？  
(あてはまる番号に1つ)

介護が必要になった場合に望む相談体制では、「電話で気軽に相談できるようにしてほしい (29.4%)」と回答した人が最も多く、続いて「自宅を訪問して相談にのってほしい (18.8%)」「高齢者総合相談センター等の相談窓口で相談したい (16.6%)」の順であった (図表 3-81)。

図表 3 - 81 健康管理や病気に関する相談先 (N=824)



## 自由記述から（第2号被保険者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が149件あった。主な内容は以下のとおりである。

### 住まいに関すること（7件）

- ・近隣の小学校などの廃校の教室を改良して個室をつくり、老人用の住まいにしてはいかがか。保育所が併設されればなお良い。
- ・ケア付き賃貸住宅が必要。
- ・身寄りのない高齢者が一緒に暮らせるような区の施設を多く作ってください。
- ・女性の単身者が入れる住居が少なく大変困っている。毎回都営住宅に申込みはするものの全て落選。高齢者の住宅対策に力を入れてほしい。

### 介護保険制度・介護保険サービスに関すること（55件）

- ・要支援の人が地域包括支援センター、要介護の人は居宅介護支援事業者という制度に矛盾を感じる。そのたびにケアマネが変わることになり継続的な支援ができない。加齢による様々な衰えを周囲の人々が暖かく見守り、寄り添っていく、地域全体で支える社会を作れないでしょうか。死生観等の教育も必要。
- ・自治体が率先して統計的試算を実行し数種類の条件（例 人口推移、税収、就労年数変化など）別に介護の財源、組織の確保方法を検討すべき。そして短期の内に結論を出し実行することが不可欠。100点満点の施策を5年後に実行するよりも60点の試策（施策）を1年後から実践する意識を持つべき。介護保険は効率的な資源配分（人・物・金）を可視化チェックできる仕掛けが必須。
- ・介護保険の仕組みと具体的なサービス内容をやさしく書いた冊子等がほしい。
- ・保険料を支払っているのに、自己負担が必要と言う事が、納得いかない。
- ・介護保険の負担等が増えても仕方ないので、高齢者への福祉サービスを充実して欲しいです。
- ・お金が無くても介護サービスが受けられるようにして欲しい。年収の低い人から介護保険料を取らないで欲しい。
- ・介護会社に払う料金と介護会社で介護する人に払う料金の差額が大きすぎる。
- ・施設を増やしてほしい。
- ・緊急時に預ってもらえるショートステイ先が確保できるとよい。
- ・大規模でない区立の特養やグループホームなどを区内に点在させ、家族が気軽に訪問できるような老人用施設を増やして欲しい。空き家、空き地をうまく活用。公＝区と共同＝協力して、財源は区（建物とメンテナンスなど）と入居者（運営、人件費など）が半々にするなどして介護保険を含めてすべての既存の体制にとらわれないシステムが出来ないか。
- ・介護認定が毎年違っていて、認定基準が曖昧です。
- ・利用される高齢者の方々の人数のわりにはスタッフの人数は十分とは言えず、不満を持っています。

#### ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること（4件）

- ・介護に係わる人やヘルパーさんの労働に対する待遇改善が必要と思います。
- ・介護家族にとってその情報源の一番身近なところは病院等のケースワーカーとケアマネジャーである。ケースワーカーは、プロ意識が高く本当に夜おそくまで様々な情報をあつめ提供してくれるが、ケアマネジャーが力不足であったり、情報収集能力がなかったりとして、結果介護で疲れきっている家族が奔走しなければならないのが現状。サービスの充実も大切だが導くべきしっかりしたシステムと人材が必要。

#### 医療などに関すること（11件）

- ・医療費を上げないでほしい。
- ・一律負担ではなく、係わった者の実費負担にして、健康保険料を軽減する方向へ転換して頂きたい。
- ・在宅で療養する時に不安があると思います。具合が悪くなった時、いつでも対応してもらえる様になると安心できると思います。（往診してもらえる、緊急入院させてもらえる）
- ・認知症に対する知識や実態を専門家の人達が知らなすぎる。認知症を専門とする医者、病院が少ない。

#### 区に対する要望など（24件）

- ・気軽に相談できる体制があると良い。
- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・区の窓口の対応が悪い。
- ・行政の担当の方たちが腰をすえて長いスパンで仕事できるような体制を望む。
- ・情報提供をもっとしっかりしてほしい。
- ・インターネットを使用したコミュニケーションの場を設けて欲しい。
- ・もっと広報に力を入れてほしい。
- ・もっと身近に福祉の問題を若い人にもわかりやすく説明してほしい。

#### 施策全般に関すること（16件）

- ・一人暮らしになっても安心して暮らせる住宅、環境、福祉サービス、医療サービスの充実を切に望む。そのためなら消費税が上がっても納得できる。
- ・さらに高齢者が住みやすいような福祉に重点をおいてほしい。
- ・子育て支援と併せた高齢者への「生きがい支援」を充実させ、孤独や寝たきりを防ぐ取り組みや倒れた場合の支援を細かく見直すことが必要。
- ・新宿区は大企業がたくさんあります。税金も多く入ると思います。福祉を他区より充実する先頭になり、福祉のお手本の区政をして下さい。
- ・自治体、公的機関が高齢者の生存権を保障し尊厳ある人生を最後まで送れるように様々な手段と具体的な政策をとって欲しい。
- ・成年後見制度の充実。

- ・他の区より安心、充実したサービスを受けられる差別化が絶対に必要かと思います。保険料を多少負担してでも、負担した分住民に還ってくる無償サービスがあったら最高。若い年代にボランティアしたらポイント化して、高齢者になったらポイント分サービス受けられるシステムも必要。

#### 就労や地域活動などに関すること（9件）

- ・元気な人に対する仕事の確保など社会環境の整備にもっと真剣に取り組むべき。
- ・身近な所でお手伝いできる様なお知らせがポストに入れば、皆、参加されると思います。
- ・介護などに積極的に活動している方々も多いと聞きますので、そうした活動や団体に対して補助金を出し、サポートすることには賛成です。
- ・高齢者、障害者の方々へのボランティア活動については、一日でもという空いている時間を利用して、地域のボランティア活動をさせていただくというシステムがあるといい。
- ・80歳代の人を70歳代の人が、70歳代の人を60歳代の人が介護支援する（ボランティアあるいは少額の手当てで）仕組みを考えてはどうか。保育園児、幼稚園児と高齢者との交流の機会を増やしたらどうか。
- ・民生委員、区役所担当部、マンション管理組合とのコミュニケーションが必要。

#### 施設等に関すること（5件）

- ・高齢者がどんどん子どもの施設（児童館や学校など）へ入っていける仕組みがあると良いと思います。
- ・病気にならない様に安いスポーツ教室を近所に作ってほしい。徒歩で行ける距離に、高齢者の利用する施設をもっと作ってほしい。
- ・歩道、施設をバリアフリー化

#### その他のご意見（18件）

- ・子供が少なく高齢者が多く、若い者に負担が多すぎる。
- ・健康な人への表彰制度を考えてほしい。
- ・今はまだお世話になることもありませんが、将来的にはとても不安は感じます。自分の希望とは別に子供にはあまり迷惑はかけたくありませんし、身体が不自由になった時にすぐに入れる施設はあるのでしょうか。
- ・色々な相談手段（窓口）があることがわかりよかった。しかしそれが具体的かつ迅速に一応でも解決してくれるのかと言うと大いに疑問だ。
- ・この機会に保険や福祉について関心を持ちたいと思いました。
- ・高齢者と子供が幸せということは、他の年代の人間も住みやすいはず。

